

令和2年5月29日 開会
令和2年5月29日 閉会
(臨時第6回)

大山町議会同議録

(副本)

大山町議会

大山町告示第 130 号

令和 2 第 6 回大山町議会臨時会を次のとおり招集する

令和 2 年 5 月 25 日

大山町長 竹口 大紀

1 日 時 令和 2 年 5 月 29 日（金） 午前 10 時

2 場 所 大山町役場議場

3 付議事件

- 1) 議案第 71 号 大山町税条例の一部を改正する条例について
- 2) 議案第 72 号 大山町介護保険条例の一部を改正する条例について
- 3) 議案第 73 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算（第 4 号）
- 4) 議案第 74 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算
(第 1 号)

○開会日に応招した議員

森 本 貴 之	池 田 幸 恵
門 脇 輝 明	加 藤 紀 之
大 原 広 巳	大 杖 正 彦
米 本 隆 記	大 森 正 治
野 口 昌 作	近 藤 大 介
西 尾 寿 博	吉 原 美 智 恵
岡 田 聰	野 口 俊 明
西 山 富 三 郎	杉 谷 洋 一

○応招しなかった議員

なし

第 6 回 大 山 町 議 会 臨 時 会 会 議 録

令和 2 年 5 月 29 日（金曜日）

議 事 日 程

令和 2 年 5 月 29 日（金曜日） 午前 10 時開会

1 開会（開議）宣告

2 議事日程の報告

日程第 1 会議録署名議員の指名について

日程第 2 会期の決定について

日程第 3 議案第 71 号 大山町税条例の一部を改正する条例について

日程第 4 議案第 72 号 大山町介護保険条例の一部を改正する条例について

日程第 5 議案第 73 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算（第 4 号）

日程第 6 議案第 74 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算
（第 1 号）

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

出席議員（16 名）

1 番 森 本 貴 之	2 番 池 田 幸 恵
3 番 門 脇 輝 明	4 番 加 藤 紀 之
5 番 大 原 広 巳	6 番 大 杖 正 彦
7 番 米 本 隆 記	8 番 大 森 正 治
9 番 野 口 昌 作	10 番 近 藤 大 介
11 番 西 尾 寿 博	12 番 吉 原 美 智 恵
13 番 岡 田 聰	14 番 野 口 俊 明
15 番 西 山 富 三 郎	16 番 杉 谷 洋 一

欠席議員（なし）

欠員（なし）

事務局出席職員職氏名

局長 …………… 持 田 隆 昌 書記 …………… 三 谷 輝 義

説明のため出席した者の職氏名

町長 ……………	竹 口 大 紀	教育長 ……………	鷺 見 寛 幸
副町長 ……………	小 谷 章	教育次長……………	前 田 繁 之
総務課長 ……………	山 岡 浩 義	幼児・学校教育課長 ……………	田 中 真 弓
財務課長……………	金 田 茂 之	企画課長 ……………	源 光 靖
観光課長 ……………	徳 永 貴	農林水産課長……………	井 上 龍
福祉介護課長 ……………	池 山 大 司	こども課長 ……………	進 野 美穂子
健康対策課長 ……………	末 次 四 郎		

午前 10 時開会

- 議長（杉谷 洋一君） みなさんおはようございます。
○局長（持田 隆昌君） 互礼を行いますのでご起立ください。一同礼。着席ください。
-

開会・開議・議事日程

- 議長（杉谷 洋一君） ただいまの出席議員は、16 人です。
定足数に達していますので、令和 2 年第 6 回大山町議会臨時会を開会します。
これから、本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に 配付のとおりであります。
-

日程第 1 会議録署名議員の指名について

- 議長（杉谷 洋一君） 日程第 1、会議録 署名議員の指名を行います。
本臨時会の会議録署名議員は、会議規則第 125 条の規定によって、5 番 大原 広巳
議員、6 番 大杖 正彦議員を指名します。
-

日程第 2 会期の決定について

- 議長（杉谷 洋一君） 日程第 2、会期の決定についてを議題にします。
お諮りします。本臨時会の会期は、本日、1 日限りにしたいと思います。
ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（杉谷 洋一君） 異議なしと 認めます。
したがって、会期は 本日、1 日限りに決定しました。

日程第 3 議案第 71 号

○議長（杉谷 洋一君） 日程第 3、議案第 71 号 大山町税条例の一部を改正する条例についてを議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀 町長。

○町長（竹口 大紀君） 議案第 71 号 大山町税条例の一部を改正する条例は、地方税法等の一部を改正する法律及び地方税法施行令の一部を改正する政令等が令和 2 年 4 月 30 日に公布され、同日から施行されたことに伴い、大山町税条例について所要の改正を行うものです。

改正の内容としましては、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に係る固定資産税の課税標準の特例の追加、徴収猶予の特例に係る手続き等の所要の改正を行うものであります。

なお附則では、これらの改正の施行期日を定めております。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから議案第 71 号を採決します。お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は 起立願います。

〔 賛成者起立 〕

○議長（杉谷 洋一君） 起立多数です。

したがって、議案第 71 号は、原案のとおり可決されました。

日程第 4 議案第 72 号

○議長（杉谷 洋一君） 日程第 4、議案第 72 号 大山町介護保険条例の一部を改正する条例についてを議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 議案第 72 号 大山町介護保険条例の一部を改正する条例は、新型コロナウイルス感染症の影響により、第 1 号被保険者の属する世帯の生計を主として維持する者の収入減少が見込まれる場合等、一定期間に限り、介護保険料を減免するため、大山町介護保険条例の一部を改正するものであります。

なお、この条例は、公布の日から施行し、令和 2 年 2 月 1 日から適用とします。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから議案第 72 号を採決します。お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔 賛成者起立 〕

○議長（杉谷 洋一君） 起立多数です。

したがって、議案第 72 号は、原案のとおり可決されました。

日程第 5 議案第 73 号

○議長（杉谷 洋一君） 日程第 5、議案第 73 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算（第 4 号）を議題にします。

提案理由の説明を求めます。竹口 大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 議案第 73 号 令和 2 年度大山町一般会計補正予算（第 4 号）については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業やG I G Aスクール構想事業などを実施するにあたり、歳入歳出予算の過不足を調整するため、本議会の議決を求めるものであります。

この補正予算第 4 号は、既定の歳入歳出予算の総額に 2 億 8,690 万 9,000 円を追加し、歳入歳出予算の総額を 129 億 7,155 万 5,000 円とするものであります。

新型コロナウイルスの感染拡大により、大山町内でも様々な分野で経済的な打撃を受けていますが、多方面から支援等を行うことで、当面の経済支援に加え、今後の経済の V 字回復や新たな生活スタイルへの適応を進めていきたいと考えております。

主な事業を申し上げますと、まず、就労継続支援特別交付金として、軽作業等の受注が減少したことに伴って利用者の工賃が減少している障がいサービス利用者の生活を維持するため、緊急的に工賃減少分の一部を定額給付いたします。

農林水産部門におきましては、地域の花や観葉植物などを買い取り、花き等の需要の増加を図る花いっぱい応援事業、牛肉・猪肉・水産資源等を学校給食などで活用し、販売促進並びに経済活動の回復を図る地元産材活用支援事業、漁業組合員及び漁業組合の活動支援を行う水産物流通回復支援事業などを実施いたします。

商工・観光部門におきましては、町内事業者が感染予防や感染拡大防止を行う経費を支援する事業所内感染症対策補助金、新分野への販路の拡大やインターネットでの非対

面販売等を新たに取り組む経費を支援する販路拡大支援補助金、町内の宿泊施設を町民に利用いただき、大山の魅力を再発見していただくツアー造成事業などを実施いたします。

そのほか、さまざまな支援策などを盛り込んでおりますが、今、最も重要なことは、予算を速やかに実行に移すことであり、日常を取り戻し、経済を回復させることに全力で取り組んでいきたいと考えております。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

○議員（15 番 西山 富三郎君） 議長、15 番。

○議長（杉谷 洋一君） 15 番 西山議員。

○議員（15 番 西山 富三郎君） 歳入の 3 ページです。200 万、地方交付税がきています。説明には特別交付税と書いてあります。特別交付税というのは、災害が加味されていると思っておりますが、コロナ対策でこの 200 万はどのように配分されますか。（「2000 万だよ」と呼ぶ者あり）2,000 万、ごめん、ごめん。2,000 万はどのように配分する予定ですか。

次、6 ページ、民生費で、あすなろクラブに対して 8 万円計上しています。クラブの子どもたちは何人いるんですか。どのようなコロナ対策を行っておりますか。説明してください。

8 ページ、大山町飲食店等緊急支援補助金が 50 万円、これは対象事業者は何件ですか。それで等では分かりませんが、対象される職種を説明してください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からそれぞれお答えします。これ以降、直接担当のほうが手をあげて答えたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

○財務課長（金田 茂之君） 議長、財務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 金田財務課長。

○財務課長（金田 茂之君） 特別交付税 2,000 万についてお答えいたします。

これにつきましては、テレワークの関係で特別交付税をいただくものであります。臨時交付金の対象になりませんが、国のほうで今年度にテレワークの環境整備をする自治体につきましては、上限額なく 2 分の 1 の特別交付税を財政措置をするということですので、2,000 万の予算計上をさせていただいているところであります。

以上です。

○福祉介護課長（池山 大司君） 議長、福祉介護課長。

○議長（杉谷 洋一君） 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長（池山 大司君） あすなろクラブの利用人数でございますが、申し訳ご

ざいませ、手元にきちんとした人数は持っておりませんが、概ね 50 人ぐらいが利用していると思います。で、この 8 万円でございませ、放課後児童クラブを含めまして、利用される児童さんの手指消毒用のアルコールをだいたい 4 リッターぐらい準備しようかなと今、計画しているところだ。以上だ。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） お問い合わせいただきました大山町飲食店等緊急支援補助金につきまして対象の事業者だ、予算上では 10 事業者分を見込んでおります。

あと、職種につきましては、飲食関係ということではございませ、この事業に取り組んでいただけるということだあれば、特に職種は、限定は考えておりませ。

以上だ。

○議員（15 番 西山 富三郎君） 議長、15 番。

○議長（杉谷 洋一君） 15 番 西山議員。

○議員（15 番 西山 富三郎君） 歳入の特別交付税だ、テレワークも入るんだ、なぜテレワークが入るんだ、詳しく説明をしてください。

あすなる児童クラブの課長、人数は正確に把握してないだ、やはり子どもたちが何人居てというぐらいなこと、将来を担う子どもたちだ、数字等はきちんとしてくださいよ。我々は質問をします。質問が悪かったら、西山さん、声が大いよ、恫喝だよというような人もいますが、あなた方が十分に説明を返さないということは、議会を馬鹿にしてるということになるんだ。お互いに緊張感を持って、執行部と議会がいい大山町をつくるというの、我々の本会議の努めじゃないだ、もう少し調査をして、これだけの子どもがいますから、これだけの手当をしています、ということを見せてもらわんと分からんんじゃないだ、答弁が不十分ということは議会軽視だと思ひますよ。

それから飲食店の方とは、十分な連絡を取り合って、具体的にはどんなやり方をするんだ。

○財務課長（金田 茂之君） 議長、財務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 金田財務課長。

○財務課長（金田 茂之君） 特別交付税につきましては、災害だけに特化されて財政措置をされるものではないだ。特別交付税に関する奨励というの、ございまして、そちらのほうに記載されている事業につきましては、特別交付税の対象となります。

で、テレワークにつきましては、新型コロナウイルス対策ということ、国のほうも推奨してございまして、今年度からこの奨励に載ってくると、今年度から対象になるというものでございませ。

○福祉介護課長（池山 大司君） 議長、福祉介護課長。

○議長（杉谷 洋一君） 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長（池山 大司君） すみません、先ほど概ね 50 人と申し上げましたが、現在の登録者数は、27 人でございます。

で、だいたい平日利用で今換算しておりますが、長期休暇に入りましてさらに 30 人ぐらい増えますので、概ね 50 人とお答えさせていただきました。以上です。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） ご質問の飲食店と緊急支援補助金の具体的な取り組み方法ということですが、主な対象については商工会さんの会員の方が多いと考えています。商工会さんのほうとは密に連携を取りながら、情報交換しながら周知等含め連携して臨みたいと考えております。以上です。

○議員（15 番 西山 富三郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 西山議員。

○議員（15 番 西山 富三郎君） 我々は、住民から選ばれた議員です。皆さん方は試験で入った職員です。ある議員は、「西山さん、私は真剣勝負だと思ってる議場は、赤パンツを履いてきております」こういった議員もいましたよ。従って我々は質問に慎重にしなければなりません。もっともっと丁寧な説明、まともな説明をするようにですね。これまで町長として、議員の質問に対しては充分答えられるよう指導しているんですか、どうですか。

（「答えてますがん」「何、他の質問にモノ言うな」と呼ぶものあり）

○議長（杉谷 洋一君） 静かにしてください。

○副町長（小谷 章君） 議長、副町長。

○議長（杉谷 洋一君） 小谷副町長。

○副町長（小谷 章君） 何度か議場のほうでも説明が不足している、それから全協のほうとかもですね、きちんと数字とか抑えてきて欲しいというようなこともいただいております。そのあたりは私どものほうも管理職会議等で議場のほうで滞ることがないような形で準備して欲しいということは言っております。それは引き続きしてまいりたいと思いますし、ただまあ、全部数字を細かく頭にたたきこんで全てできるのかというとなかなか難しいところもございます。で、実際に資料を持ち込んでなるべくきちんと答えられるように各課長準備をしているところですけど、なかなか思い届かずに持っている資料で不足しているものとか、たまにあるわけでございますけれども、なるべくそういうことがないように努力していきたいと思っております。

○議長（杉谷 洋一君） 他に質疑ありませんか。

○議員（8 番 大森 正治君） 議長、8 番。

○議長（杉谷 洋一君） 8 番、大森議員。

○議員（8 番 大森 正治君） 何点か事業ごとに質問したいと思いますが、感染防止事業として健康対策課からの提案ですけれども、マスクの購入と備蓄、それから配布という点がありますけど、その配付が必要に応じて町内の医療機関とか、介護福祉施設等にするといいふうにありますので、個人にはないのかというふうに考えるんですが、等とあるからそれも含まれているのかどうなのか。

まあ、かなり出回っておるし、県のほうもやっていますけれども、やっぱりまだ欲しいという人があるかもしれない。これから今後もね、不足になるかもしれない、このコロナ感染症の進展によっては。そういう点で個人に配布ということは考えていらっしやらないのか、と言う点。

2 つ目としまして、農業関係の支援として、花いっぱい応援事業というのがありますけれども、ちょっと中身がようわからないので、お聞きしたいんですけれども、花きの需要が激減にしている中で、大変だということで、一旦これは、花や観葉植物など買い取りってありますよね。買い取った後どういうふうなことをされるのか。町が買い取るっていうことですよ。その辺で、もうちょっと詳しく説明してください。

それから3 点目としまして、これ、観光関係ですが、町内施設を利用したツアー造成事業 1,000 万、かなり大きな金額ですけれども、これは今の大変不況に陥ってらっしやる宿泊業関係者を少しでも、宿泊が、いくようにということでの一つのおもしろい案かなというふうに理解したわけですが。ただ先ほどちょっと全協で説明の中で、町民に限るとか、あるいは先着 800 人に限るとかというのがありますよね。これ、本当に成功させれば、少しでも宿泊業者にとっては救いになりますので、成功させていただきたいんですが、町民に限った場合にね。どれだけ希望者だがあるのか、800 人もあるのかどうなのかとちょっと素人考えでも気がかりな点があります。

そういうことで町民に限らず、まあ何で町民に限られたのかわからないし、県内の、町外の人ではいけないのか、それを対象にしたほうが、よりいろいろではないかなというふうに考えるんですが、その辺はいかがかなものでしょうか。

それから、4 点目かな。4 点目として議案の 6 ページのところ、民生費として、児童福祉費のところ、消耗品費、放課後児童クラブあすなろクラブ、先ほど質問がありました。その他、保育所の管理、その下のほうにも、消耗品としてありますがこれは消毒用品費関係かなと思いますけれどもその詳細等、それから大山町にはですね、障害児を対象にした、放課後等デイサービスという施設がありますね。大山キッズクラブか、そこも、話を聞きますと、いろいろと支出が多くなっていて、大変だということを聞いております。そこへの援助はないのか、考えていらっしやらないのか。ここに挙がっていないので、その点もお聞きしたいと思います。

まあ、他の人もあるでしょうから、以上 4 点お聞きします。

○議長（杉谷 洋一君） 答弁をお願いします。

○健康対策課長（末次 四郎君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 健康対策課長。

○健康対策課長（末次 四郎君） お答えします。

現在のところ、議員おっしゃいますように、想定としましては、医療機関なり介護福祉施設を想定しております。

しかしながら今後の、国の第2弾、2弾の追加、追加経済対策も考えた場合、各個人といえますか、各世帯のことも今後検討していきたいというふうには思っております。

以上です。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。

7 ページの花いっぱい応援事業の件でございます。この事業は、国の新型コロナウイルス感染症の地方創生臨時交付金を活用した事業でして、10分の10ということになっていきます。

で、町が直接、花等を買って消費をさせ、経済回復をさせるというのが目的でございます。

活用方法ですけど、現在検討してますのが保育園に苗とか購入して配ったり、また米寿とかの祝いに今年度は、花を消費するというので、花を配ったりというようなことで、花の需要の増加をさせていきたいというふうに考えております。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、お答えさせていただきます。

町外の方も対象にしたかどうかということでございますけれども、まずは、町民の方をお願いしたいというふうに思っております。

まずは、なかなかふだん地元の宿泊施設に泊まるということがまずございませんでして、ひよっとすると、大山登山に泊まって以来ってということもあるかもしれません。そういうこともございますし、まず地元の宿泊施設に泊まっていきたいというのが一つでございます。

そしてまた、これ、ツアーを体験していただきまして、また新たに大山の魅力というものを再発見していただきたいということがございますので、まずは町民の方を、対象に始めたいと思います。

また広報につきましては、さまざまな大山チャンネルとか町報とかそういうのを使いながら、広報していきたいと思っております。以上です。

○こども課長（進野 美穂子君） 議長、こども課長。

○議長（杉谷 洋一君） 進野こども課長。

○こども課長（進野 美穂子君） 放課後児童クラブの消耗品ということですが、放課後児童クラブ、5月1日現在の登録者数が145人ありまして、これをアルコールを購入するというものです。平日利用の方、145人かける2回、この2回は、来場したときと、おやつときの2回です。これを20日間、そして、7か月を想定しています。

あと長期休業につきましては、同じく145人のこれは、昼食も入りますので、3回のアルコール消毒ということで、これは2か月ということで、計算をして、試算をしております。以上です。

○福祉介護課長（池山 大司君） 議長、福祉介護課長。

○議長（杉谷 洋一君） 池山福祉介護課長。

○福祉介護課長（池山 大司君） 障害者の方の放課後児童クラブの関係でございます。

ご指摘のとおり大山キッズクラブ友達というのが町内に1か所ございます。こちら平均利用数の数が大体今9人ぐらいのございますが、マスクの備蓄量はとりあえず今のところ足りてるということで聞いております。

で、それ以外の実際の障害関係の施設につきましては、今回、他の就労継続支援の特別交付金ということで対応させていただいておりますが、今のところはこちらの放課後児童クラブのほうからは、具体的な要望聞いておりませんので、もしあれば、また第2弾ということで検討させていただきたいと思っております。以上です。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） はい、6ページの保育所の消耗品ですが、各保育所にマスクの備蓄というところで、大人用子供をそれぞれ購入するように予定をしております。

それから施設の消毒用のアルコール、また、手指消毒用のアルコール、それから体温計のほう購入するように予定しております。以上です。

○議員（8番 大森 正治君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大森議員。

○議員（8番 大森 正治君） だいぶ分かってきました。

一つ細かいことですが、花を一旦買い上げて、保育園に苗を配るとか、学校関係はないのかな。あるいは花を配るとおっしゃいましたけども、そういう施設、施設というか保育園とか、何でしょうか、町民なのかちょっとはつきりしませんでしたので、その辺をもうちょっとこう考えてらっしゃる計画があれば教えてください。

それからですね、今の宿泊施設を利用した、ツアー造成事業ですけども、確かに町の人はよく知ってっるし、案外泊まっていない。私なんかもそうだと思います。泊まってみたい、特に大山なんかの、泊まると本当に夕方あるいは朝、とってもいいので、魅力いっぱいなんですけども、そういうのを体験してもらおうというのもいいし、そっから

発信してもらおうというのも非常に重要な価値ある取り組みかなと思うんですよ。

ただ、先ほども言いましたけども、人数がどれだけ集まるかすごく懸念するんですけども、これ町内の人に限っちゃうと、集まらない心配もありますよね。

ここに一つ、何ですか、町内の、大山町民等と一字あるわけで、町外の方も利用することができるのかなと思うんですが、もし800人に満たない場合ね、そういう町外の方も対象にするようなことも想定していらっしゃるのかどうなのか、重ねてお聞きしたいと思います。はい。以上です。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 花いっぱい応援事業ですけど、細かな積算といいますか、そういうところはしてはおりません。100万円分花を買い取って消費する、経済回復を図るということで、町が直に買って、例えば保育園、小学校もそうですけど、そういったところに提供する、また個人に提供してもいいような事業になっておりますんで、先ほど言いました、例えば敬老会、そういうところに今年度は花を持っていってもいいのではないかとということで検討してます。

細かな仕様方法としましては、今後検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、ありがとうございます。

800人集まるかどうかということでございますけれども、800人集まるように努力をしてみたいという具合に思っております。町外の方というのは、またあの県のほうで、そういった補助事業もございますから、そっちを使っていただいて大山のほうに来ていただけたらというふうに思いますし、まずは、町民の方を800人集めるよう努力したいと思います。よろしく申し上げます。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。はい。

○議員（12番 吉原 美智恵君） 議長、12番。

○議長（杉谷 洋一君） 12番 吉原議員。

○議員（12番 吉原 美智恵君） モニーツアー助成事業についてですけども、まず、無料ということの根拠ですね、確かにたくさんを体験していただきたいということはわかりますけれども、そのモニーツアーでアンケートなどを書いていただくときに、無料でアンケートを書いていただくということが、少しはちょっと、お金も少し払いながら、モニターをきちんとしてもらうという考え方もあるかと思ったりもしますがいかがでしょうか。

ただ、この足元から見直すととてもいい案だと思います。私たちも大山町内の宿泊施設

泊まったことなかなか今ありませんので、とてもいい企画だと思いますが、委託業者というふうに書いてあります。委託されるわけですね。それは、私としては観光、今観光局も行事がなくなって、いろいろと作戦を練ってるんじゃないかと思ったりもします。で、観光課の皆さんと、行政がですね、智恵を出し合っていくらでも、委託されなくても、モニターツアーできるんじゃないかと思います。その2点お聞きします。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） ありがとうございます。

無料でアンケートに答えていただいているということですが、無料で、やはり泊まっていただいて、しっかりしたアンケートをいただきたいというふうに思っています。

で、そのアンケートといいますのも、やっぱり無料だから手を抜くとかいうわけではないと思いますし、新たに大山を、新たに発見してここすてきだわとか、そして、逆に言うと、旅館さんのおもてなしがどうだったとかっていうようなこともですね、書いていただいて、それを宿泊所の方のほうにフィードバックさせていただくというようなことで、そういったアンケートもしっかり書いていただきたいなというふうに思っております。

またSNSで、大山の魅力を発信していただくということで思っておりますので、これはぜひ無料で体験していただきたいなという具合に思っています。

それと、委託業者、委託するかということですが、委託業者のほうへ委託をしていきたいと思っております。

確かに民間でもツアーもやっておられますし、どこか窓口が一つ必要だなというぐあいに思っておりますので、ツアーの旅行業を持っております大山観光局等もでございます。そちらに想定しながら、委託していけたらなという具合に思っております。

以上です。

○議員（12番 吉原 美智恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 吉原議員。

○議員（12番 吉原 美智恵君） 概ね理解しましたけれども、この各種体験商品とかそういう中にですね、やはり、宿泊業者だけでなくってそのツアーの中身、体験の中身おのなかに飲食業、町内の飲食業者の方の食事をするようなその中身があるといいと思うんですね。宿泊だけでなくって、やはり町内の業者のさまざまな飲食業者もあり、また、ペンションなどもあると思うんですね。なるべく範囲を広げて、ツアーに対して参加できるように、そしてそのツアーが、アンケートが活かされるようにと思うわけですがどうかでしょうか。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、ありがとうございます。

ツアーの中に飲食業者を使ってはどうかということでございますけれども、当然それも考えております。

昨年、昨年度、モニターツアーとかでは別のモニターツアーですけども、海を使ったツアーとかもやっておりますので、そういったことも商品にしていきながら、売り出していきたいと思いますし、当然、観光も飲食業とかそういうことを含めたところでございますので、そういった飲食業の方をめぐるといったような、そこで昼食がとれるような、そういったツアーを組んでいけたらという具合に思っております。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。はい。

○議員（9番 野口 昌作君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 9番 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） まず5ページですね、5ページのテレビ会議システム整備事業というのがございますけれども、テレビ会議をですね、町内では、大山町ではどのようなことを想定され、そしてどのような形でですね、テレビ会議システムを構築されるかということをお尋ねいたします。

それから、町内施設を利用したツアーの造成事業、さっきからあっておりますけれども、これ委託料で組んでございますから、どういう形の委託か、わかりませんが、宿泊を無料でさせるということですから、町民が行ってですね宿泊すると。その宿泊料金が、その宿の方が出されるわけではなく、この委託料から出すことになるという具合に思ったりしますけれども。そうすれば、委託料や一泊当たり1万円の場合もあれば、10万円の委託になる場合もあるということは考えられますが、そういう点でですね、何かの形で、1泊の宿泊というものは幾らであるというような委託を、委託料を想定してですね、やっておられるのか。だったらこれだけ出すから、何人か泊めてくれというようなことになるのか、ちょっとその辺がですね、おかしいなと思ったりしますのでお尋ねいたします。

それから、9ページにですね。9ページの教育振興費の中の公立学校の情報通信ネットワーク環境施設整備工事というのがございますけれども、今コロナウイルスの関係でですね、学校の教育環境もどんどん変わりつつあるようでございますけれども、これですね、何らかの形で、やっぱり教育環境が、いわゆる情報で教育を行っていくような形というものがですね、少しでも構築されていくような形のものなのかということをお尋ねいたします。

それから10ページ、保健体育費の学校給食室の問題でございますけれども、給食室のですね、冷房設備をしたわ、換気扇がフルに活用してですね、換気扇がどんどん回し、冷房はどんどんかけると。電気はもうじゃんじゃん使いですね、そして冷えない、冷え

ないなんて言っただけで大変なことですが、冷房設備というものをですね、どういう形を考えておられるか。普通よこしからですね、バーバー吹き出すような冷房ではですね、どうもならないなという具合に思ったりするわけでございますけれども、そういうような考え方をですね、どこまで研究して、こういうようですね。古い換気扇を回して、そして冷房を入れ込んでですね、冷やしていくというようなことを考えておられるかということをお尋ねいたします。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい、テレビ会議システムの内容でございますけれども、今回のコロナということになりまして、いわゆる各種研修、町職員もそうですけれども、各種研修等がこの3密を避けてやらなければならないということになりますと、なかなか一遍に1か所に集まるとするのが難しい状況でございます。

こういうことを避けるため、今回考えておりますのは、本庁、各支所、あと保健センターなわ、この4カ所について、テレビ会議システムを導入しまして、分かれて会議なりに参加できるというふうにシステムを構築したいというふうに考えております。

以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、ありがとうございます。

1泊の想定は、そちらについてはそちらについてどうだろうかということだと思っておりますけれども、ツアーですけれども、1泊2日の日程で、1泊2食でございます。プラス、体験商品、何かを体験していただくということの料金の込みでございます。大体、想定いたしまして、例えば平均各宿泊施設の宿泊する額もそれぞれ違うわけでございますけれども、積算の想定といたしまして、平均、1万2,000円で見込んでおるところでございます。以上です。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 教育関係2点御質問いただきました。

1点目の、GIGAスクール構想にかかわるネットワーク環境整備工事、また端末の整備という部分ですが、当初は、数年かけて段階的に整備していくという予定だったんですが、このコロナ感染拡大ということで、また、第2波、第3波があるという場合に、本当に家でのネットワーク環境を用いた学習をしていかないと、学習の遅れがあるということで、早急に整備したいという部分です。総体につきましては担当のほうで、説明させていただきます。

名和の給食センターの空調設備工事ですが、これ、基本的には換気設備をフルに稼働

した状態で、冷房能力、冷房価格って言って、適正な温度を保つというところが基本になっておりますので、その部分の具体的な室外機、また冷房機器については、担当のほうがお答えしたいと思います。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） 前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） ネットワーク環境整備についてお答えします。

このことについて、学校の教育環境がどう変わっていくかですけれども、子供たちの学習の確認のために現在、プリント等のドリル学習をしておりますが、そのことについて、タブレット上で、自分の学びを確認できる体制を整えていきたいと思っております。タブレット上で答えた内容が各教員のほうにデータ集約されて、それぞれの子供がどのくらいまで、学びを深めていっているのかが瞬時にわかるような体制を整えようと思っております。

それから、プログラミング教育が今年度から実施されます。それをさらに拡充していくということで、専用のソフトウェアの購入も考えております。プログラミング教育だけではなくて、ネットワークを活用する際の注意事項でありますとか、いろんなSNS上のトラブル防止とか、道徳的な部分の学習もこのソフトによって深めていくことを考えております。

それから、学習支援ソフト、スララの導入についても、こういったタブレットを使って、家庭でも学習できる環境を整えていきたいなというふうに考えております。以上です。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） はい、名和学校給食センターのエアコンにつきましてですけれども、調理室6台、そのほかの部屋で4台の合計10台の設置を予定をしております。室外機につきましては、2台設置をする予定です。以上です。

○議員（9番 野口 昌作君） はい、議長。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員。

○議員（9番 野口 昌作君） テレビ会議システムの件ですけれども、非常にいい考え方ではないかなと思ったりしますけれども、これから先はですね、本庁に来んでもテレビ会議はできるというような状況になるということですか。電話ですとね、連絡をとることは電話でやっておられるわけでございますから、恐らく本庁での集まりということがなくなっていくというような状況になるか、まあたまにはあるでしょうけれどもそういうような状況になるということなのかということをお尋ねしておきます。

それから町内の施設を利用してツアーの委託料、これ1万2,000円ぐらい大体考えているということでございますけれども、この委託者というのは、結局、宿泊業者、何て

言うですか。大きな会社か何かと思っておりましたけれども、委託先をいろいろとならたくさん委託先と契約を結ぶということになるのかということをお尋ねいたします。

それから教育関係でですね、学校教育の関係が非常に変わっていくようなことでございますけれども、これは非常にいい取り組みですが、何と申しますか、県内、県内で対象と考えると、県内でどの程度の学校がですね、それを全部こういうシステムを取り組むか、この度っていうんですか、今回にですね。

それと、町内での小中学校は全部、このシステムが導入されるかということをお尋ねいたします。

それからですね、もう1点。給食室でございますけれども、給食室もちよっと細かい話になるわけですが、横しのほうから、冷房を入れ込む、ねえ。上から換気扇も回すというようなことをやっとなら、とてもたまらんと申しますよ。冷えるようなことはありません。

とにかく冷房はですね、下に停滞しますからね、その停滞するのも上から換気で抜いちゃうということになっていきます。構造上ですね、もっと、何かそういうことはございませんという具体的なですね、具体的によく冷やす、冷房をスポット的にでも冷やすようなことのシステムだというようなことが説明できるような説明していただきたい、そういう状態でないかなと思ってるわけですが、とにかく換気扇をどんどん回すは、冷房を入れるは、上のほうがどンドンどンドン換気しちゃうわと。これは、ほんとでね、電気代じゃぶじゃぶの時代になりますからね。

そういうようなことの詳細ちよっともうちよっと詳しいことをですね、専門的にこうです、冷房はよくききますというような回答をいただかなければいけないなという具居に思ったりします。以上です。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。テレビ会議システムで会議がなくなるのではないかと申しますけれども、これは3密にならないようにということをやります。

少人数の会議でしたら、3密にならないように対処して会議は開けるものというふうを考えておりますけれども、大人数の場合ということで、例えば職員の場合、研修等があるわけですが、そういうときに使っていきたいというふうを考えております。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、ありがとうございます。

たくさん委託先と契約をするのかというところでございますけれども、町から委託をさせていただくのは一社でございます、その、大元から各町内宿舎と、それぞ

れ、委託なり、委託と言いますか契約、こういうことを協力しますということで、やっていただけたらというふうに思っております。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） ちょっ、ちょっと待ってください。もう教育委員会はいいいですか。電気代じゃぶじゃぶというのは。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） はい、じゃあ前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） ネットワーク整理が GIGA スクールの県内の状況ですけども、ほぼ全市町村が年内整備を目指して取り組んでいるところです。町内でソフトウエア等も全ての小中学校を対象に整備していく予定にしております。以上です。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 学校給食センターの空調ですけれども、当初、空調の設置は、天井からつり下げる形を想定をしておりましたけれども、このたび、壁からの横づけというところで、より近くで効率的に空調が回せるように変更をしております。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） 野口議員、もうよろしいですか。

〔「いいです」と呼ぶ者あり〕

○議員（6 番 大杖正彦君） 議長、6 番。

○議長（杉谷 洋一君） 6 番 大杖議員。

○議員（6 番 大杖正彦君） 学校教育関係ですが、今回の、コロナウィルス対策で、テレワークとか、いろんなそういうネット通じて、利用した事業あるいは教育システムをつくっていくという、これはぜひ、確実にというか効率のいい形で進めていきたいということと、これは全県で取り組んでいることと思いますが、忘れてならないのはやはり、子供たちのための、やっぱり個人的であったり、団体的であったり、やっぱり、肌で通じるような教育を忘れないでいただきたいと思います。これについては後ほど聞きたいと思います。その中でですね、新型コロナウイルス感染症対策で備品購入費が 153 万 2,000 円あがっておりますが、これは具体的な購入、何を購入されるか、目的とお聞きしたいと思います。

それから先ほどから、多くの議員の方が、質問されてます町内施設を利用したツアー造成事業ですが、補正の予算書には、委託料となっております。ただいま、この委託先についてちょっと、まだはっきりとした業者の名前言っていいのかわかりませんが、いずれにしても、こうした作業を行うには、そういったまとめをするような場所がないと、十分効果が発揮できないと思ってますので、これは明確にさせていただきたいということ、と言いますのはですね、各先ほどから、説明もありましたように、各宿泊利用された宿泊施設に、内容、アンケートを提出して、それをフィードバック、ま

とめてフィードバックするというのは、観光局観光案内所も非常に、とっても非常に大きな重要なデータにもなります。

ということであればですね、観光案内所を運営しております観光局との、連携ですか、十分考えなくちゃいけないんですが、その2点についてお尋ねいたします。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、ありがとうございます。

業者を明確にするということでございますけれども、一応こちらとして想定しておりますのは、まず緊急経済対策事業ということでございます。それと、こういったツアーをするのは旅行業の免許持っていないといけませんし、また配宿も当然まとめて宿を決められてはなりませんということで、そういった緊急性、それから旅行業の免許ということもございますし、町内企業の育成というところもございます。大山観光局を想定しているところでございます。

そこでまとめて宿等申し込んでいただいて、この事業取り組んでいきたいという具合に思っております。

そして、アンケートでございますが、観光局と連携をするという、いかがかということでございますが、当然、それは連携していかなければならないという具合に思っておりますので、ご理解の程よろしく申し上げます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 先ほど議員から、GIGA スクール構想について、ICT教育環境整備についての御質問いただきました。確かに全て情報機器に頼るというわけではなく、やはり1番大事なのは、人と人とのつながりであります。

先ほど次長のほうから、道徳的な部分のソフトウェアの導入も考えているという説明がありましたが、やはりこの、ICTの活用とか、環境整備は重要ですけど、そのこと自体、自体を目的化するわけでもなく、やっぱり子供たちの資質能力を伸ばす上で、ことが1番大切ですから、そういった情緒的な部分、そして、教育の効率化を目指す部分で、補助的に情報教育機器を活用していくということで、やはり適切な活用ということを重要視していきたいというふうに考えております。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 9 ページの学校管理費の備品購入費でございますけれども、こちらにつきましては、次亜塩素酸水の精製装置を3台購入するように予定をしております。

各中学校区に1台でず購入をいたしまして、小中学校等における消毒にかかる時間の

短縮を図ればと考えております。以上です。

○議員（6番 大杖正彦君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 大杖議員。

○議員（6番 大杖正彦君） ただいま教育関係のほうと、それから教室内に次亜塩素酸ソーダの噴霧器を付くと、これは非常に、どこまで効果があるとは別で、非常に気持ち的にも気をつけなくちゃいけないというような、生徒自身にも植えつける意味では非常に、いい取り組みだと思っておりますので、早急をお願いしたいと思っております。

それから、今、ツアー造成事業の件ですが、例えば、観光局がそういった業務を、地元の観光関係の上に携わってるわけですから、いずれにしても、どんな、例えば建築工事であれば設計委託料とか、直接の工事費というふうに段階があって予算が施行されておりますが、この委託料の中に、観光協会なりが、まとめる運営料なり企画料なり、それから、事後の報告業務なりの、そういったものに対しての運営料といいますか、委託料というものについてはどの辺の、どれぐらいのパーセンテージですか、割合を考えていらっしゃいますか、お答え願います。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。設計とか、事務費の関係かなという具合には思っておりますが、大体100万円程度見込んでいるところではございますけれども、これは設計によって、上下するということがあると思っておりますので、だいたいそれぐらいというところでお考えいただければと思います。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長、13番。

○議長（杉谷 洋一君） 13番 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） 二、三質問いたします。

これまで質問が出ましたけど、関連質問でお願いいたします。

5ページのシンクライアント環境構築事業6,765万7,000円。これシンクライアント化すれば、それぞれのパソコンにデータを保存しなくても、サーバーで保存してやれるということでセキュリティの向上が図れるとか、あるいは、異なった端末からでも、同じような、情報を知らせて別な場所でも仕事ができるというようなことで、ここでは主にテレビ会議を挙げていらっしゃいますけれども、今回の新型コロナウイルス感染症対策で、各会社、事業所なんかはリモートワークが非常に重要視されて来ましたが、これを導入すれば、こういうリモートワークも実現可能になるわけですが、将来はそういうことも考えていらっしゃるのかどうか。

それから、2点目は、9ページのGIGAスクール構想事業1億4,661万6,000円の件ですが、これ、GIGAスクール構想実現パッケージということで、文部科学省が、標準仕

様とか、共同調達とか出していますが、その間で、端末の使用としては、タッチパネル機能、ハードウェアキーボード、インカメラ、アウトカメラ、そしてマイクがヘッドホン端子。これらを全て有することが望ましいとされています。

この、その後入れるということでアメリカの3製品、3社の製品が挙げられておりますが、大山町ではそういうことは関係なしにやられるのかどうか。

それから、共同調達として、文部科学省では、私も難しいと思いますけれども、県内全域で同じものを調達して、うんと安くしろということを書いてますけれども、例えば、端末は5万円程度で、調達できるのではないか。そうすれば、県内で、教職員が異動してもすぐに使える、あるいは児童や生徒が転校しても、すぐ使えるというような環境に、いい環境になるということを書いておりますが、その点については、少しでも検討されたものとか。

それと、校内LAN整備も必要だと思いますが、この予算にはそれは入っているのかどうか。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。シンクライアント環境構築事業のことについての御質問でございますけれども、現在、町の業務ということ、テレワークでやろうということが、なかなか今の環境ではできていないということがございます。当然、行政ですので、個人情報、住民の個人情報が多く入っておりますし、町のネットワークに、今現在では外からは接続できないというようなことが、今の現状でなかなかテレワークというのでできない状況でございます。

今回、このシンクライアントの事業ということによりましては、個人のPC、コンピューターには、データは残らずに、サーバーのほうにデータは残るということで、情報の漏えいということもなくなるということがございますし、今、今現在、多い職員で1人は、各ネットワークごとに3台のコンピューター持っているということが、それが1台は減るとようなことがございまして、このシステムが構築すれば、テレワークなりができるというふうに考えております。以上です。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） はい。9ページのギガスクールにかかわる端末の購入ですけれども、今回の端末の購入につきましては、国が示しておりますWindows、アイパット、クロムの3種類の中から、大山町では、これまでの導入の経過を踏まえて、Windowsタブレットを購入するように予定をしております。

また各メーカーが、補助金に対応した機種を要してきておりますので、その中から、選製をしていくことになるかと思っております。

また共同調達につきましては、ほかの県内の市町村、それから西部地区でも教職員の異動というところがありますし、児童生徒の教育環境の統一といった面で、共同調達ということも検討してまいりましたけれども、先ほども申し上げましたように、これまでの市町村の導入の経過というところがありますし、また、補助金も今年度、今年度に前倒しというところで、時間もなくなってきているところがございます。

そういった面では、共同調達というところは現在のところは考えておりません。

それと校内のネットワーク工事につきましてはですけども、ネットワーク工事につきましては、6,851万6,000円のほうではなくて、その上のネットワーク環境施設整備工事というところで、7,414万円のほうに入っております。以上です。

○議員（13番 岡田 聡君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 岡田議員。

○議員（13番 岡田 聡君） シンクライアント環境のことですが、主にテレビ会議を想定ということですが、将来的に普通の民間の会社とは違うかもしれませんが、テレワークの時代が来るかもしれませんが、そういうことは全く想定されないのかどうか。公務員では難しいのかもしれませんが、その点をもう一度お願いいたします。

それから GIGA スクールの端末ですが、大体この種は全部備えるということでしょう。それと、値段は1台当たりどれぐらい想定されているのかどうか。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい、シンクライアントについて御説明いたします。

このシンクライアントにつきましては、今現在、町の職員等が役場でやっている業務を家のほうでもできるというふうにするものであります。それは住民になり個人の情報がしっかり保護されてやるということございまして、御指摘のとおりテレビ会議というものではございません。

今現在、町の職員が役場で、コンピューター作業等やっているものが、テレワークということで、家のほうでもできるというシステムでございます。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） GIGA スクールの端末についてでございますけれども、国のほうが GIGA スクール構想というところで、1台当たりの補助額を4万5,000円と、定額に定めております。

また、標準の使用というところも定めてきておりますので、各メーカーがこの金額に合わせて、製品のほう準備をしてきております。ですので、4万5,000円に近いところで購入できるものと考えております。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。

えっとね、質疑の途中ですけどもここで休憩に入りたいと思います。
再開は11時20分とします。

午前11時7分休憩

午前11時20分再開。

○議長（杉谷 洋一君） では、再開します。

他に質疑ありませんか。

○議員（2番 池田 幸恵君） 議長、2番。

○議長（杉谷 洋一君） 2番 池田議員。

○議員（2番 池田 幸恵君） 2点お尋ねします。

前回の臨時議会で決まった助成金のほうの部分なんですけれども、なかなか伝わっていない方がおられまして、今回のこういうふうな助成があるということはどのように周知されるのかということと、あと、空調のほうなんですけれども、以前、説明していただいたときは天井に吊り下げ方ということでお伺いして、今聞いたところ、そうではなく、横からというお話だったんですけれども、スポット的な、先ほど野口議員がおっしゃったようにスポットクーラーみたいなのに変ったのかそれともスタンド型などような形に変ったのか、教えてください。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） まず私のほうから商工関係の部分についてお答えいたします。

前回、5月14日に議決いただきまして既に執行中でございますが、こちらの助成金、補助金等につきましては、主に商工会を通じて会員の方に既に周知をいただいております。

また今後広く、町内全域に向けましては、広報だいせん等で、広報を行う予定にしております。また今回、御提案差し上げています補助金等につきましても同じく、同じ広報、予定では、広報だいせん7月号において、一括で一覧にできるような形にして、周知を考えております。

また今回御提案差し上げている内容、議決をいただきまして、要綱制定ができた時点で、やはりこちらのほうも商工会会員の方の該当が多かろうということで、商工会のほうでは、連携しながら、周知をいただくように既に話をしております。以上です。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） はい、給食センターの空調についてですけれども、スポット的なものではなくて、壁から出ている形のものになります。以上です。

○議員（2番 池田 幸恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 池田議員。

○議員（2番 池田 幸恵君） 広報6月、7月号ということになりますと、6月末ごろ第4週に配布予定だと思わなければならないけれども、やはりそれだと遅いような気がします。ので、できるだけ何かほかの、広報はもちろんですけれども、ほかのものも使ってお願いしたいと思います。

ほかの課の方は答弁がなかったですけれども、同じような考えでよろしいですかね。それと空調のほうなんですけれども、以前、議員のほうから、横かスポットみたいなのがいいんじゃないかというような話が出たときに、食品衛生上の関係から、上部から全体の部屋を冷やすものでないと食品の安全の温度が保てないからってという説明があったんですけれども、今度横から変わったときに、上からなければその温度が保てないって言ってたことに対しての、安全面は大丈夫なんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

周知の方法に関しましては、複数の課にまたがりがありますので、私のほうから答えさせていただきますけれども、基本的には先ほど企画課長が申し上げたとおり、広報等使って周知をしていきますが、準備ができた段階で、それ以外の方法でも例えばホームページ、SNS等を使って発信していきますし、定例の記者会見の中で、発信することによって、報道機関等でも取り上げていただいて周知を図っていく、さまざまな方法を考えて、的確に早く、情報を届けたいというふうに思っています。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） はい、給食センターの空調についてですけれども、スポット的なものというところは、人に直接当たるような感じになるかと思えます。

今回のものは、壁つけですけれども、室内全体を冷やすという意味で、衛生管理上必要な温度は保てると考えております。以上です。

○議員（2番 池田 幸恵君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 池田議員。

○議員（2番 池田 幸恵君） 変わった場合には、全協で説明した場合と変わってきますので、やはり案内やお知らせは欲しいと思います。

で、それが無いのに、いきなりこう議場で採決になってきますと、やはり今まで聞いてきたことと変わってきますので、そのあたりぜひともあの資料等でお知らせ願えたらと思います。

で、やはり、当初、今回は換気扇を回さなければならないから、温度が下がりにくいために変更だっていう話を伺ったんですけれども、やはりそういう状況っていうのは、前もってわかることの範囲に入ってくるので、突発的な事故で変更になったわけではご

ざいませんで、よく調べて、やはり皆さん税金を使って修繕をしていくわけです。皆さん自分の御家庭だと、やはり、見積もりをとって比べて、いかに安くしようかって考えるといます。同じように考えていただきたいといます。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） はい。御指摘のとおり、変更になった場合には、速やかに資料の提供をこれから行っていきたくといますし、それから、先ほどありましたフル稼働、換気設備をフル稼働での冷房効果っていうのを検証した上で、計算、実施設計をするというところで、研究不足の部分がありましたので、これからはきちんと対応できるようにしていきたくといます。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） すいません。先ほど教育長さん、あのようになんて答えたけれども、基本的にはですね、予算を提案する際には、概略とか概算の設計になります。その後、詳細設計、実施設計ということになりますので、概算でなるべく、詳細な設計に近い数字になるように努めてはいるところでありましてけれども、実際にその専門事業者等に、実施設計ということで設計をしてもらう際にですね、当初、概算の設計では見積もっていないもの等が出るということはこの空調の新設の工事以外にもですね、さまざまな工事が出てきます。

なるべく、予算の範囲内でおさめたいというところは方針として持っておりますけれども、概算設計の段階で、実施設計と同じレベルで、細かく金額を詰めるということは、現実的ではないというふうには考えております。

ただ、大幅に予算が、上振れしたりしないように努めているところでありましてそこは御理解をいただきたいなというふうには思っています。

○議長（杉谷 洋一君） ほかに質疑ありませんか。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長、4番。

○議長（杉谷 洋一君） 4番、加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） 何点か質問します。

まずシンクライアントのことにに関してですけれども、あ、シンクライアントと GIGA スクールのことにに関してです。

シンクライアント環境構築事業は 6,700 万を超える事業ですし、GIGA スクール構想は、1 億 4,000 万を超える事業です。この臨時会でなければ、提案できなかったんでしょうか。6 月定例会は、来週から始まります 6 月定例会で、ゆっくりと審議をする時間をいただきましたかと思うんですがいかがでしょうか。（「そうそう」と呼ぶ者あり）

それから、GIGA スクール構想の中身で、端末購入補助対象の端末と補助対象外の端

末とありますが、何が違うのか御説明願います。

それからですね、花いっぱい応援事業と、地元産材活用支援事業です。地域経済の活性化っていうのが名目なのかなと思いますけれども、だとすると、いかにも額が少ないなと思いますが、これで十分なのかお尋ねします。

続いて農林水産課の関係ですが、ジビエ利用確保事業です。ジビエ振興会への町からの補助的なものは今後一切発生しないと以前の定例会で、しっかり答弁されたと思いますが、「そうだ」と呼ぶ者あり)今回は、冷蔵庫を購入するというこのようです。その答弁の矛盾についてどうお考えでしょうか、説明願います。

もう1個は、水産物流通回復支援事業500万円です。交付の対象が、御来屋支所、中山支所、おさかなセンターとあります。おさかなセンターの売り上げが減少した資料がついていませんが、なぜおさかなセンターが対象になっているのでしょうか。例えば自営事業であるならば、定置網というのも、自営事業だと思います。おさかなセンターだけ特別に挙げられた理由をお尋ねします。

それから、グリーンシーズンの活用補助金です。当初予算にも同じような事業がありますけれども、そちらで向かうことができなかつたのかっていうのが1点と、具体的にこの事業の内容、どんなことをやるのかというのが、説明資料にはありますけれども、8月の22日という時期に、総勢で500名になるのかな、そういったマラソンイベントをするっていうのが本当に適切なのか、説明をお願いします。

それからですね。飲食店等緊急支援補助金です。テイクアウトやデリバリ等を実施する事業者への経費を支援するということですがけれども、多くの事業者は既にテイクアウトであったりとかデリバリだつたりを始めておられます。遡つての経費を支援することが可能でしょうか、お尋ねします。以上です。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。シンクライアント環境構築業務委託ということで、これがなぜ今、今回の臨時議会かということでございますけれども、先ほど説明しましたように、職員の在宅勤務ができるということがございまして、コロナが第2波というようなことも考えられる今の現状におきまして、早急に構築してその上に対応できるようにということで、今臨時会に提出させてもらったものでございます。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） はい。まず農林水産課の関係で、花いっぱい応援事業、100万円、少ないんじゃないかということですが、昨年の花き等の売り上げが、おおよそ3200万ぐらいでございまして、大体3割、2割から3割が減額になっているということで伺ってます。それで今回100万円計上させていただいております。

あと地元産材の活用支援事業 210 万、これもちょっと少ないんじゃないかということですが、県単独の事業で、牛肉につきましては、県が 1 億 6,000 万予算計上されて、全、小中学校に 3 回、使用される予定となっております。その町単独の部分として今回 1 回分を計上したというところでございます。

それと、ジビエ利用確保事業、これは通常の場合じゃなくて、コロナの影響によるものだというふうに考えております。通常の補助金というのは、支払いはしてないんですが、コロナの影響によりまして、配送先といいますか、使っておられるところが、休館になって、直にコロナの影響を受けられております。昨年 1 年間、自分のところで全部やってこられまして、1 年間の利益は、黒字になっておりましたが、このたび、コロナの影響でスタートが、かなり悪くなったというところでございます。そういった支援なので支援が必要かというふうに考えております。

それと、最後、漁協の部分ですが、なぜおさかなセンターが入っているかというところですが、おさかなセンターは、このコロナの影響で、4 月 25 日から 5 月の 6 日まで、12 日間、営業をやめられておられます。4 月の売り上げだけでも、200 万以上の減額となっております。これは本当は、持続確保金の対象になるんですけど、鳥取県漁協、一社なので、ここの部分については、持続化交付金の対象にならないということで町単独で補助していきたいというふうに考えております。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） 加藤議員の御質問にお答えさせていただきます。

まずグリーンシーズン活用でございますが、当初予算にもあったけれどもというところでございますが、当初予算が成立した後、こちらの新しく大山グリーン夏フェスはやりたいということで、ご提案がありました。それを受けまして、ちょうどコロナ対策の関係もでございます。この交付金で、景気回復がこれからずっとされていくという予定でございますので、ではこの事業を活用して、グリーンシーズン活用、この事業にのっていかうということにしましたので、御理解お願いしたいと思います。

それと、もう 8 月 22 と 23 の予定でございますけれども、事業が適切か否かということでございますが、これは実行委員会形式で、旅館組合の後継の方が中心でやっておられますけれども、6 月 4 日に実行委員会が開催されまして、開催するかどうか、そして開催するのであれば、どういった規模かというようなことが、詳細に決定されますので、現在のところでは、まだ、現在進行中ということでお答えをさせていただきたいと思っております。以上です。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） 大山町飲食店等緊急支援補助金につきましては、こちら

のほうにつきましては既に、実施したものについても対象とできるような仕組みで考えております。以上です。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） はい。GIGA スクールの端末についてでございますけれども、補助対象の742台については、児童生徒数の3分の2というところでの補助でございます。

それ以外の170台につきましては、対象外の台数371台のうち、既に整備してあるものを除いて、あと教員の不足する分を追加して、対象が170台としております。合計で912台を整備する予定です。

また、端末の使用ですとか単価につきましては、どちらも同じものを考えております。以上です。

〔「GIGAスクール、何故この臨時会に提案したのか」と呼ぶ者あり〕

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） GIGA スクールの整備につきましては、今年度いっぱい、補助事業を終了することになっておりますので、なるべく早く、工事にもかかりたいと考えておりますし、端末の調達もできるだけ早くして年度内にはできる限り終了したいというところで、今回提案をさせていただいております。以上です。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） ジビエ利用の件ですけれども、ジビエ振興会に冷蔵庫を購入しても、変な話ジビエの促進というか、利用促進にはつながらないと思います。どちらかといえば地元産材活用支援事業のほうで、肉を買い取って、給食であるとかに使ったほうが、本来の目的にかなうんじゃないのかなと思います。なぜ、今回冷蔵庫の購入などのかお尋ねいたしたいと思います。

それとシンクライアントのことと、GIGA スクールのことですが、1カ月遅れるぐらいですね、その定例会に持っていても。なぜ、なぜなのか、なぜこの臨時会なのかという部分が全く回答になってないと思います。なぜ1週間後の定例会に予算計上することができなかったのか。今でなければ、今年度内に整備できないのか。その辺、しっかりとした説明をお願いします。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） はい。ジビエ利用の件ですけど、地元産材の活用事業として、イノシシの肉、これもわずかですけど、30万購入するようにはしております。

またジビエの冷凍庫ということで、今捕れても、もう流通がストップしております。そういう関係で、入れる場所がなくなってくる。今後の経済回復のためには、必要なものだというふうに考えて今回計上したものであります。以上です。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 加藤議員の御質問にお答えいたします。

GIGA スクール予算、この補正予算で組んだ理由ですけど、当初は3年4年かけてやる予定だったんですが、やっぱり文科省が、コロナウイルス対策の関係で、整っている学校は、家庭学習も遠隔授業もでき対応できていたが、整っていない学校と整っている学校の格差は生じたため、今後の新型コロナウイルス対策にも含めて、全国一斉に補正予算を組んでやっていくわけです。

全国一斉に、端末機器の購入が始まるわけです。やはり、来月っていうふうにしておりますと、どんどん遅れていって、端末がよそにとられてしまってこっちの大山町の子供たちに、行き渡らない可能性があるということで、一刻も早く事業を進めたいという理由で、今回提出させていただきました。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。シンククライアント事業につきましてですけれども、今回の、コロナ対策ということで、スピードある事業の展開ということで今回挙げさせてもらいましたけれども、さらに、先ほど教育長が言いましたように、これについてもコンピューター関係で、数十台の端末が必要ということになりまして、なかなかすぐすぐ調達できるのかと、あるいはシステムの構築ということで数カ月かかるということですので、早急な予算化ということで今回上程させてもらったものでございます。

○議員（4番 加藤 紀之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 加藤議員。

○議員（4番 加藤 紀之君） はい、2回目に聞いたことは理解しました。2回目聞き忘れたので水産物のことについてお尋ねします。

県漁協は、持続化給付金については、中小事業者ということになるのかな200万をもらえる対象なんだろうなと思うんです。それに対して、御来屋支所も中山支所もおさかなセンターも県漁協の一部ですから、200万をもらった上に、町から500万を上乗せをするということになります。

先日の臨時会で、大山の旅館等に100万円の上乗せっていうのはありましたけれども、本当にその500万という金額が適切なものなのかというのは、ちょっと私には理解がし兼ねます。

というのも、売上額に関係なく持続化給付金というのは、一律中小事業者には200万、

個人事業主には100万というものがございます。にもかかわらず、今回、漁協しかも、今は単協ではありませんから、県漁協ですので、県の本所に、結局合算されるわけですよ。それを単町で補助しなきゃいけない500万という金額、その理由というか納得できる説明をいただかないとちょっと賛成しかねます。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） このたびのコロナウイルスの関係で農林水産関係では、漁業関係が1番大きな影響を受けております。

説明をしましたが、まず魚価の下落、また売り先ですね。売り先が、ホテルとか居酒屋、旅館、そういったところに、高級食材等が出回ってるんですけど、そういったものが一切ストップした。ということで、4月の売上だけですけど、これもあの、かなり出ております。1か月で3,000万以上の減額というふうになっております。これは御来屋支所、中山支所合わせた金額であります。

これ4月1か月だけなんです、5月の恐らく少ないということにはなっています。それで500万が適当なのかっていうところですが、あくまで最低でも、200万、200万100万、合わせて500万、これは必要なところだというふうには考えております。

ただ、今後、こういった1か月3,000万とか、そういった大きな影響が出るようだったら、組合員さんにも影響してきますんで、必要な支援だというふうには考えております。

漁協と言いますのは組合員さんの水揚げの手数料、それによって運営費等を支払われております。その売り上げの金額がかなり減額になってくるっていうことは、漁協さんの運営自体がかなり厳しいというところがございます。この件に関しましては、漁協さんより要望書のほうも2回ほどいただいております。簡単ではありますが、以上です。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長、10番。

○議長（杉谷 洋一君） 10番 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 何点かお尋ねいたしたいと思います。

今回の補正予算ですけれども一般会計で、2億8,690万の増額補正3億近い補正が全てほとんどが、コロナの関係というふうに思うわけですけれども、ただ、細かく見ていきますと、シンクライアント環境構築事業で6,700万、GIGAスクール構想事業で1億4,661万円と、いずれは、コロナ関係なしで取り組む予定だったものが、2億ちょっとありますから、本当に、コロナの関係で一般住民の方を対象に、予算が組まれたものは、7,000万円ぐらいになるかなというふうに思うわけですけれども、これはですね、コロナ対策の予算として、十分な額と認識しておられるのかということ、それから今後もコロナ対策についても、予算措置についての考え方について、まず御説明いただきたいと思います。

それからですね、今回の補正予算の財源となっておりますのが、主なものとして国からの臨時的なコロナ対策の交付金が、1億1,000万円入っておりますが、反面、どうも見ますと、予算書の説明資料の8ページですけれども、商工振興費で一般財源が3,100万円減額になっております。国から入ってきた交付金で、振りかえたのかなと。この3,100万円の分は、次の予算措置のために留保してあるのか、それとも前回の臨時会で、町が単独で行った交付金の予算に振りかえられたものなのか、分かるように説明をお願いいたします。

それから、個々の事業についてお尋ねしたいと思いますが、観光の関係で町内施設を利用したツアー造成事業について、何人かの議員さんから質問のあったところですが、基本的にはいい取り組みだと思いますが、800人ちゃんと集まるのかなという不安もあるのは別にですね、例えば、日帰りのプランであるといろんな町民の方もですね、参加しやすいのではないかと。大山に上がって体験をして、昼食にふだんは食べない、少し高価なランチなどもあってもいいのかなと、日帰りのプランの検討はどうなのかということをお尋ねしたいと思います。

それから、地元産材活用支援事業、農林の関係で、学校給食に町の特産の牛肉だったり、あるいはジビエの食材を提供する、いいことだと思いますが、一般町民にもですねこういう機会があってもいいのではないかなというふうに思います。

例えば、町内の飲食店業者が、町内産の和牛だとか、あるいはあわび、サザエなどの、少し値の張る食材を購入された際の補助金があれば、町民なり近隣の住民の方がですね、大山町内の飲食店で地元のおいしいものを安く、食べることができると、そういうことにも、今回の国の交付金に使えるんじゃないかなと思うんですけれどもこういったことの検討はどうなのかということをお尋ねしたいと思います。

それから最後に GIGA スクールの関係です。こういった状況の中で、前倒しで進められるのは非常にいいことなんだと思っておりますが、心配するのは、果たしてこのハードな環境が整っても、それを有効に使える人材は、心配がないのかということがあります。リモート学習だったりとかあるいは説明の中で、今後のプログラミング教育のことにも言及されましたけれども、そういったことが十分にできる人材、教職員は十分に確保できているのか。場合によってはですね、こういったご時世ですから、そういう IT 教育をする、専門的な知識がある方を、地域おこし協力隊員だったりとか、あるいは専門職員として直接町が雇用するとか、そういった形で人材を広く全国に求めてもいいのではないかなと思うんですけれどもそのあたりの考え方について、御説明いただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい、それぞれ担当からお答えしますが、私のほうからが、こ

の予算で十分なのかというところと今後の方針について尋ねられましたのでその2点お答えします。

この予算で十分かどうかといえ、まだまだ不十分だと思いますので、今後も必要な支援策をやっていきたいというふうに思っております。今後の方針としましては国の2次補正が、同額程度、また臨時交付金で出てくるようなこともありますので、そういったところでしっかり、町民の経済活動の回復に努めていきたいというふうに思っています。

○財務課長（金田 茂之君） 議長、財務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 金田財務課長。

○財務課長（金田 茂之君） 地方債臨時交付金の関係でありますけれども、商工費の員3,148万5,000円につきましては議員御指摘のとおり、5月14日に議決をいただきました経営持続化支援事業のほうに振りかえております。以上です。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） GIGAスクールについて御質問いただきました。

確かに、設備は整えたが、それがただの箱になってしまっただけでは、元も子もありません。ただ、学校の教職員もいろいろと能力の差がありまして、これについては研修を必要とすると思います。詳細については担当からお話ししますが、先ほどいただいたその地域の人材活用という部分も含めて、検討していきたいというふうに考えております。

○教育次長（前田 繁之君） 議長、教育次長。

○議長（杉谷 洋一君） 前田教育次長。

○教育次長（前田 繁之君） 教職員の研修についてですけれども、今年度からプログラミング教育が導入されるに当たって昨年、かなりの回数、校内研修、それから小学校の全教職員を集めての研修を進めております。県のほうも研修担当を派遣するシステムをつくっております。

それから、大山町としても今年度からICT支援員を導入しておりまして、パソコンの操作であるとか、具体的にどういう授業が望ましいかについてアドバイスをさせていただく方をお願いしておりますので、そこも有効活用していきます。

それから、今年度残りの期間ですけれども、やはり1人1台ということは非常に大きい。ですので、今後も市内での研修を、教育委員会のほうで主催しながら進めていきたいというふうに思っております。以上です。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） はい。地元産材の活用支援事業で、飲食店等で活用できないかということではありますが、地元産材は活用していただくのはすごくいいことだと

思います。補助金となりますと商工業者への補助金ということになりますので、企画課と検討しながら、できれば進めていきたいというふうに考えております。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。近藤議員さんのご質問にお答えさせていただきます。

議員さんも800人集まるかどうかということはありませんけれども、頑張っていきたいと思っておりますし、皆様からも御参加、御発信をお願いしたいと思っております。

で、日帰りプランはどうだろうかというような御提案ございました。まず、原則としましてはやはり、宿泊事業者の緊急経済対策ということもございますので、原則1泊2日でまいりたいと思っておりますけれども、日帰りプランについては検討してみたいなという具合に思います。以上です。

○議員（10番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10番 近藤 大介君） 質問したいと思っております。

まずGIGAスクールの関係ですけれども、教職員の方が研修をされるのは当然のこととして、こういった状況、夏休みもね短縮されるような状況で、ただでさえ教職員の方の負担も重くなっているところだと思います。やはり、町独自でもですね、そのICT支援員がどこまでの仕事を受け持つとられるかわかりませんが、そういった、プラスアルファの人材を投入してですね、教職員の負担もある程度軽減しながら、よりよい活用ができるような仕組みの検討をお願いしたいなと思っております。

それから、コロナ対策の予算全般のことですけれども、町長も御自身で認めておられるし、皆さんわかっておられると思いますが、ここで終息したと言えないような状況の中で、ますますというかね、まだまだコロナ対策のさまざまな事業が必要なんだろうと思います。国からは1億1,000万、今、来ている段階で、3,100万もですね、既に町が支出することを決めたものを、振りかえる、返す必要があるのかなど。1億1,000万、新たな事業に、私は、検討して支出していただきたいなと思うわけですが、この補正はこの補正としてですね、国の2次補正が決めるまでのですね、この3,100万円は、例えば、6月に新たに補正を組んで、交付金事業として新たな事業3,100万、私は4,000万でも5,000万でもあってもいいと思っておりますが、さらに、新規の事業を、検討されるお考えないかどうか、ちょっとお尋ねしたいと思っております。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 御提案いただきました学校の教職員への支援、また、研修を含めた人的な支援という部分については、御提案いただいた人材の活用という部分で、検討してまいりたいというふうに思っております。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

この財源としてですね、臨時交付金を使ったか使ってないかということで、支援策の総額が町民向け、町内事業者向けに、縮小することがないようにやっていきたいというふうに考えています。

しかしながらその臨時交付金を何に充てるかというところは、財政的に大山町が有利なように組んでいく必要があるというふうに思っています。これを組み替えたからといって、その分、支援策の総額が減ることがないように、引き続き、新たな支援策等についても検討していきたいというふうに思っています。

○議員（10 番 近藤 大介君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 近藤議員。

○議員（10 番 近藤 大介君） 引き続き、新たな支援策を検討していくという言葉がありましたので、そういうことにぜひ期待したいところです。

令和元年度ですね、来年度末の大山町の基金の総額がもう 60 億近いところまで、あったと思います。それから、財政調整基金ですか、財政調整基金がちょっと幾らとか、ちょっと、財務課長また教えてほしいですけども、17 億あるわけですけども、やはりこういう非常事態のときにしっかり使ってこそその意味のある基金じゃないかなというふうに思います。

今日、議員向けの資料、配付いただきましたけど、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用事例ということで、1 億 1,000 万、こういうことに使ったらどうですかというような一つの活用事例がありますけれども、見るといろんな事業に使えるなというふうに思ってみました。1 億 1,000 万の枠に別に納める必要ないんじゃないですかね。本当に大山町が必要としている事業、特に今、大山町で考えると、さまざまな自粛自粛の中です、高齢者の方々の見守りであったりとか、もっとこれからさらに力を入れていかなければならないまちづくりの活動を今停滞しています。それをどうコロナなどの感染症がある中で今後どう進めていくのか、こういった国の基金なども使いながらですね、事業をどんどん進めていく必要があろうかと思うので、本当に基金をですね、必要に応じて積極的に取り崩して、事業に向かっていっていただかないと困るなと思うんですけどもそのあたりの考え方、再度町長、お願いいたします。

○議長（杉谷 洋一君） 質疑の途中ですが 12 時になりました。

答弁だけいただいて、あとの残りの質疑は、昼から 1 時から始めたいと思います。

じゃあ、執行部のほうで今、近藤議員の答弁だけをいただいて、休憩ということにしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。まず、財調残高ですが約 18 億です。

総額で近藤議員ご指摘の通りかなりの額ありますが、それぞれ目的別基金ですので、全てが使えるということではありません。

ただ財調の部分は、使っても差し支えないのかなというふうに思っています。国の臨時交付金の額、今回で言えば 1 億ですので、まだまだ足りないと思いますので、こういう緊急事態のときに、使うために財調等も積んでいるというような考えておりますので、積極的に支援策は展開していきたいというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。じゃあここです、昼休憩させていただきますと思います。

まだ質疑はたくさんあるかと思しますので、昼からやりますので。午後は 13 時 10 分に始めたいと思しますので、よろしくお願いします。

午後 0 時 2 分休憩

午後 1 時 10 分再開

○議長（杉谷 洋一君） では、午前中に引き続きまして会議を開きます。

○議員（11 番 西尾 寿博君） 議長、11 番。

○議長（杉谷 洋一君） 11 番、西尾議員。

○議員（11 番 西尾 寿博君） 同僚議員と重なるようなことがあります、2 点、質問させていただきます。

1 つはですね、ジビエの利用確保事業 220 万とあります。もとを正せば、ジビエ工房はですね、自分達で振興会を立ち上げてやるんだというところから始まり、町と県がですね、何とか補助金を出して、今に至っておりますが、実はその間に、捕獲した駆除したイノシシ対してですね、借り上げ料の変更だとか、紆余曲折ありながら、今まで育ててきたということはあるけれども、加藤議員がおっしゃったように、あとは自主でやるんだと、ジビエ振興会でやりますよという話が、いつの間にかこういうことになってきたなと思って実は思ってます。

心配するのはコロナもそうですけども、以前は、豚コレラというふうに言っておりました。今、豚熱っていうんですかね。が、終息してません。じわじわと出てるような状況で、神奈川でしたかな、千葉だったかなあ、あの辺で野生のイノシシが豚に近づかないように対策をとる。あるいは、ウイルス予防として予防注射をやるんだという話も出てきておりますが、これ風評によるととですね、またジビエは、食べないほうが良いというようなことも出てくる可能性が実は、あります。

そのときに、いやもう支援をしないんだと、これっきりだというようなことを何回も、言うのであれば、これはね、もうおかしな話になってくるなど、後だしジャンケン、やあこれ絶対またやってあげないけん。そうするのであればね、皆さん不信感を抱く、ど

うちにしろはつきりしてもらいたいなと思ってますけどね。

それは、例えば何年か区切って立ち上がる、立ち上げる、しっかりした軌道に乗るまでは、やっぱり支援してあげんといけんのですよというようなね、ことをきっちり町民に言ってあげたり、私たちに説明してくれればそれなりに、じゃあ、こういったことになったら、自分たちでやれるようになったんだなということですね、していかないと、いつまでもこれ何かあったらやるんですよっていうことになればね、振興会もやっぱり成長していかないんだろうし、やっぱ努力もね、やっぱ人ごとみたいになっちゃう。私はそれを実は心配するんで、はつきりね、今後も、やるならやる、これ切りならこれきり。先ほども言いましたが、次もある可能性もあるんで、そういったこともね、はつきり示していただきたいな、そうするとね、納得しやすいなと思っております。

もう一つですけども、町内施設を利用したツアーの話です。1,000万とあります。1,000万、ねえ、1,000万で何とかなるかとは思いますが、こういった話は、実は観光局という部署があるので、まあツアーデスクしかり、大山町の観光のことはあそこにいるいろいろお願いをしたり実はしとる面があります。2月雪不足、3月コロナ、4月、今までそうなんです。そうなるのですね、職員も仕事が減つとるでしょうし、その間研修したりとかね、いろいろ大山のこともじっくり、遡って考えることができたんじゃないかと思いますが、この提案については観光局が出たのかどうか、確認したいと思います。

というのは下のほうにあります 50何万円の予算については、今のランニング、それについては、若手の後継者なんでしょうかね、が提案者というふうになっております。非常にいい事だなと実は思ってるんで、そういったことがあれば、どんどん支援していただければなと実は思っております。

先ほど言いましたが、観光局のほうがですね、こういった提案したのかなというふうな、ちょっと確認です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

方針、考え方について聞かれておりますので、私のほうからお答えをしたいと思いますが、ジビエ振興会に関しましては、以前からお伝えをしております通り、初期投資等はしながら、運営の補助等は、自立でやっていただくというところに変更はありません。

基本的にはですね、軌道に乗るまでという話がありましたが、昨年度の様子を見ましても、赤字でどうにも困っているということではなくて、軌道に乗り始めているような状況にあるというふうに思います。

まだまだ販路の拡大等は必要だというふうに思っていますが、現状で、この新型コロナウイルスの影響で、取引先の飲食店がお店を閉めている関係で、ジビエ振興会の大山ジビエ工房の中で、もうストックができなくなっていると。これ以上、在庫を抱えよう

と思えばもう捨てていくようなこととなります。

で、ジビエ振興会のもともと立ち上げの基本的な考えとしましては、民間企業のように、どんどん、儲けを出して、自分たちの懐に入れてくんだというようなことではなくてですね、その地域振興の観点から、鳥獣被害、特にそのイノシシの農作物の被害を、いかに抑えていくかというところを基本的な考えとして、かつ、なるべく自治体の財政の負担にならないようにということで独自で自立運営をしていきたいというような考えがありましてやっているところであります。

そんな中であって、もともと活用のされていなかった、イノシシ肉を今販売をする形で、大切な生命をいただいていますので、それを無駄にすることなく、利活用できているところでもありますけれども、このまま、新型コロナウイルスの影響が続きますと、捕ったイノシシもそのまま処分をしていくというような状況にもなりますので、この際、冷凍庫を増設しまして、しっかり在庫を確保して行って、今後の経済の回復期に、そういった、捕ったイノシシをしっかり出していける体制をつくっていかうという考えのものであります。

運営に対して補助していくという考えではありませんので、御理解いただければというふうに思っています。

それから観光のことにに関してですけれども、このツアーの造成に関しては、観光局から出た話というよりは、職員の中で、今、新型コロナウイルスの経済対策の会議というものもしております。その中で、現場の声をいろいろ拾ってきた職員が練り上げた政策でありますので、どちらかという要望によって、それに対応したものではないという形の施策でございます。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい、西尾議員の御質問にお答えさせていただきます。

先ほど町長が申し上げました補足でさせていただきたいと思っております。提案させていただいた形は、観光局と我々で協議して提案させていただいた形でございます。そもそも、この雪不足、そしてコロナ対策で大山寺、そして宿泊業者がかなり打撃を受けております。

また、大山これからどうなるんだというような危機感を持ってやっております。そういったところで観光局からこういったことはどうでしょうかということで、このツアーのもとになる、素案の段階ですけども、そういうものを提案いただいて、我々と協議しながら、この形で提案させていただいたということになりますので、御理解をお願いいたします。

またグリーンシーズン活用につきましても、観光局が積極的にかかわって、この実行委員会にかかわりながら、運営していく上に関わっていくということでございますので、

御理解をよろしくお願いします。

○議員（11番 西尾 寿博君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾議員。

○議員（11番 西尾 寿博君） それこそ、豚コレラがですね、出てきて牛肉が売れなくなったというときのこともまたお答えください。

今、大山寺を利用したこのツアーの件ですけれども、私はですね、本当に今大変な時期なんですけれども、こういったことが、国も実はね、よく感じていただいていると思うんですよ。だからこそこうやって、臨時対策交付金だとか、今後も多分出る可能性もあるんですけれども、ここに、109 でしたかね、ようないろんなことをお金が使えますよというふうにあるんですが、それについて私は、このアフターコロナに向けた対策プラスですね、グリーンシーズン対策もあわせ持った対策を今やるんなら今しかないのかなど。アフターコロナも睨んでですね、グリーン対策も同時に、やっぱりやってほしい。そのためには、先ほど同僚議員が言ってましたけれども、この予算では足りないという部分については、町も基金も出しながらあわせ持って、これをやるとグリーンシーズンも、何とかうまくいくんでないかというような、アスターコロナの先の、先を見越したですね、町民に、こんなことだからこそ、お金を使っていくんですよ、みたいなね、ものがあれば、まことに力強いというようなことで、地元の旅館もですね、設備についても補助金が出てます。

しかし、それが無い限りなかなか踏み込めないと思うんですよ。それがあるからこそ、県、国、町が応援しておてくれる、そういった補助金、あるいは給付金について積極的に手上げていくんじゃないかな。それをやるのが、実は今竹口町長の執行部の体制ではないかなと、私は、そういうふうに考えます。

それこそ、それだけでは足りない部分については、いや、うちで出すんだよというようなね、次も多分、もうちょっと詳しい内容も今後出てくる可能性もあるんで、そのあたりをね、もう少し考えていただきたい。逆に、これがチャンスになるのかもしれないと私は思ってますけれども。そういった考えについてはいかがですかね。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

西尾議員、御指摘のとおりで、いわゆるアフターコロナ、コロナ収束後を見据えて、さまざまな施策をやっていくというのは非常に大事だと思います。

ただ局面がそれぞれ変わってくるところに合わせてやっていく必要があると思います。今からV字回復期のみ、施策ばかりをやっていてもそこまで持たないということも当然ありますので、そこに対応した経済刺激策、あるいは支援策をやっていきながらも、そのアフターコロナの後ということなので、アフターアフターコロナだと思いますけれ

ども今のコロナ、アフターコロナ、その後という3段階で、やっていく必要があるかというふうに思います。

ただそこまでですね、全く何もやっていかないというわけではなくて、事業者によって、その影響度というのが差がありますので、まだまだ、今から設備投資でも、この際頑張りをやって、新たなお客さんを迎え入れるぞというような事業者もいらっしゃるというふうに認識をしております。

このたびのですね、感染予防対策に係る施設整備支援事業ということで、1,200万計上させていただいておりますが、これ全協でちょっと説明がさらっとしてましたけれども、具体的に、今、大山寺の旅館や民宿等はですね、大人数を受け入れて、また大量に以前ですね、スキーブームがあったような頃に、大量にお客さん入れて、また大量にさばくというような形態のところが多かったわけですが、それを少し、今の旅行需要等に合わせながら、個室の整備を積極的にやっていただきたいということで予算を計上しております。

上限額が400万、補助割合5分の4ということで500万の事業に対して400万ぐらいの補助を出して、積極的に設備投資もやっていただきながら、個室であれば、泊まれる方もですね、御家族なりでありますので、感染拡大の心配はないということで、ぜひこの際に、今の宿泊事業、旅行事情に合ったような、施設整備、部屋の整備等していただければなというふうに考えております。

今、全国的にもですね、個室で、しっかり料金を取るような、宿泊施設もふえてきております。大山寺エリア周辺でもですね、個室を整備していただいて、例えば個室で露天風呂でもあるような施設ができるかわかりませんが、そういうようなものをつくることによって、今までの客層にない新たな客層も迎え入れることができるというふうに考えておりますので、そういったところを踏まえて、このたびの予算を計上させていただいているところです。

もう1点の、ジビエの関係で豚コレラ、今豚熱というふうに呼び方変わっておりますけれども、の心配はどうなのかというところではありますが、日本でこの豚熱が一時的にわ一と広まりました。その原因というのが、農水省のほうでですねワクチンを打たないというような判断を過去にしていたというのが、原因であります。

ワクチンを投与するということになると、当然その輸出の面から言うとその国の豚肉は、汚染対象地域ということになりますので、農水省は非常にそれを敬遠しとった訳ですが、農水大臣に変わりましたから、ワクチンを打つというような方向に変えまして、大分そのおさまりつつあるような気配があります。

今までの状況と、かなり大きく変わってきていますので、大山町内におきます、例えばイノシシ肉の販売というのは、現時点では大きな影響はないかなというふうには考えております。以上です。

○議員（11番 西尾 寿博君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 西尾議員。

○議員（11番 西尾 寿博君） 町長、実はちょっと勘違いしておるんじゃないかと実は思ってますけど、豚コレラは、野生のイノシシが持っているんで、野生イノシシにはワクチンを打てないんですよ。捕まえてから打つって言うてみたって、捕まった時はもう殺すときなので、必要ないかなと。私が言いたいのは、そういった野生のイノシシが豚コレラを持っておるということなので、それを食べちゃいかんということが出たときには、売れないんじゃないのっていう話をしとるんです。まあ後からでいいです。

実はもっと大事な話が実はありまして、去年の暮れでしたかね、日交さんがですね、スキー場、ホワイトリゾートを管理していただいて、大変ありがたいなと実は思っております。

ただ、雪がこれからなかなか当てにならないという中で、解体費も自分のところで持ちながら駐車場も、自分のところで整備してあげるといような話まで実は来てますが、今この状況の中で、事業的にも大変なのかなとちょっと想像しゃいますけども、そういった中ですね、大山町のほうで、いろんな取り組みが、もしあるのであれば、一緒になって、取り組みを進めて、例えば町にできること、旅館でできること、のようなことをね、今でこそ、そういったことをね、一致団結してやってほしい。それによって、ホワイトリゾートも、グリーンシーズンもいろいろやっていくんだと言ったようなことは出てくれば、大山も何とか助かるし、先が見れば、それこそ旅館も、投資もしようかなと思ったりもするんで、そういったことも進めてほしいわけですけども、どうですかね。まだまだこれから、国の予算がいろんなことがついていくのであれば、そういったことも含めて考えてほしいと思うわけですけども、いかがでしょうか。最後になります。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい、お答えします。

まず、豚コレラ、その豚熱の件は、西尾議員御指摘のとおり野生のイノシシを介して、感染が広がっていくというような事例も確認されているところであります。

で、このワクチンというのは私も、詳しくはありませんけれども、豚熱に関するワクチンは、注射で接種するというのは、形式のものではなくて、基本的に豚熱、感染が確認された豚であったり、野生のイノシシであったり、殺処分されますので、そうではなくてですね、餌のような形で、地中に埋め込んでそれを野生のイノシシ等も体内に入れることによって、感染を抑える方式というのが主流だというふうに聞いておりますので、そういった形式で、野生のイノシシを介した豚熱というものは、収束に向かっていくのではないかなというふうに認識しております。

それからグリーンシーズンに関しての、今後の方策ですけれども、やはり設備投資を

しながら、新たな事業展開を考えていくことに尽きるというふうに思っています。雪不足で、ウィンターシーズンで売り上げが稼げないというところが、今の大山寺周辺の事業者のネックでありますので、しっかりとですね、既存の事業というものに、固定観念にとらわれることなく、新たな分野に挑戦をしていただける、事業者の支援を引き続きしていきたいというふうに思っています。

○議長（杉谷 洋一君） ほかにありませんか。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長、1番。

○議長（杉谷 洋一君） 1番 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） それでは何点か質問させていただきます。

まず、5 ページになります。関係したことで、質問がされておりますが、シンクライアント環境構築業務についてですけれども、いただいております今回の補正予算第4号の概要の中については、この事業については、行政サービスの安定的な供給を図ることがうたわれておりますが、このシンクライアント化したことによって、現状から、行政サービスの安定的な供給というのはどのように変化をして、現在、足りない部分、何が安定的に供給が図られるような改善されるのか、もう少し具体的に教えていただきたいのと、同じくこのクライアント化の事業に関連して、今年度でしたね、RPAの取り組みもされておりますが、このRPAの取り組みと、このクライアント化の関係性についてはないのでしょうかお聞きしたいと思います。

それから、同じく5ページのテレビ会議システムですが、備品購入費として、テレビ会議システム購入等ということで予算上がっておりますが、これはもうどのようなシステムを購入するのかということが決まっているのでしょうか。具体的に何というシステムを購入するのか。そのシステムはどういったメリットがあつてこのシステムに決められたのか、もう少し詳しく教えていただきたいと思ひます。

それから、予算書で言いますと7ページから9ページにわたって、農林水産関係、それから観光、それから商工関係について、前回の臨時会に続きまして、事業者さん、生産者さん等へ支援事業が提供されておりますが、これ全て国支出金が財源として充てられております。

当然有利な財源をもってして事業に当たられるということはもちろんなんですが、何よりですね町内の事業者さんの実態に合わせた有効な支援策となっていることを望まれるわけですが、この事業を行うに当たって、それぞれどのような実態を調査をされて、売り上げの減少等が深刻な問題となっているのは当然のことなんですが、どのぐらい影響が出ているのか。そこに対して、それぞれの事業この予算で、臨時補正で上げていく、その妥当性とかというものをですね、もう少し説明していただきたいと思ひます。

例えば、8ページですね。例えば8ページの感染予防対策にかかる施設整備支援事業ということで先ほども町長から答弁ありましたが、これからV字回復期に向けてですね、

人の流れがまた出てくると、観光客の入り込み数がふえてくる。そうしたときにそういった実態に合わせた需要に対応するために、こうした設備投資などが十分大切であるという認識はあるんですが、この新型コロナウイルス感染拡大の影響によってですね、今、経済的にすごい打撃が来ている中で、現状、この事業を活用して、施設整備に対する投資へ向けていくという、ということを考えてときに、今の次期、臨時で挙げる適正な事業なのかなというふうに私は少し疑問に思ったりします。

そういったところも含めて、今予算に提案されておりますそれぞれの事業、こういった実態に対してどのように有効なのかお聞きしたいと思いますよろしくをお願いします。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。まずシンクライアント事業の安定的継続的というものでございますけれども、コロナというようなことが発生いたしますと、職員を在宅勤務なりということで、役場の職員の密度を減らすということで、国なりから示されておるものでございますが、今現在、いわゆる、職員が自宅なりで業務をするというのが、役場ですので、住民の個人情報というのを持っておりますので、それを使って自宅で業務をするというのが、今現在はできないというところがございます。

ということで、今回のこのシンクライアントの事業をやることによりまして、個人情報の機密性が保たれたまま在宅で勤務ができるということで、そういう業務は、今でしたら、役場に来てからでないとできないということで、自宅でやろうと思えば個人情報のない業務のみが自宅でできるということでなかなか使い勝手が悪いというのがありまして、それが個人情報があるものでも自宅でできるということで、安定的な業務ができるというふうに考えております。

あとテレビ会議システムの内容はということでございます。テレビ会議システム、これ、新しい技術ですので、業者によって、値段の高い安いというものが、いろいろありまして、何がいいかといのがあるわけですが、一応安いの見積もらせていただいて、今回提案させてもらっているというものでございます。以上です。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。7 ページの件ですけど、どのような調査で、こういった事業の金額を出しているのかというところでございますが、まず関係機関と協議等を行っております。JA、漁協さん、またはジビエ振興会というところに聞き取り等もしております。

で、まず花いっぱい応援事業であります。加藤議員のときに答弁したように、年間、大体3,200万ぐらいの売り上げがあつて2割から3割の減というところで今回100万円ということで金額は想定しております。

次の地元産材活用支援事業、これにつきましても、県の事業があるということから、町では給食牛肉 1 回分、猪肉については、これ 30 万 4 回分見込んでおります。また海産物ということで 60 万の購入を予定してるところでございます。これも漁協等、ジビエ振興会、そういったところと、聞き取りをしながら決めた金額でございます。

あとジビエ利用の確保事業、これは冷凍庫、あとおさかなセンターのエアコン設置、これは品物の代金、定価での計上としておりますので、そのような金額としております。以上です。

○企画課長（源光 靖君） 議長、企画課長。

○議長（杉谷 洋一君） 源光企画課長。

○企画課長（源光 靖君） はい。議員の質問にお答えいたします。

商工関係の部門の補助でございますが、基礎としておりますのは、大山町の商工会さんのほうで今年度になってから会員向けにとっておられますアンケートの集計結果をもとにしております。

まず事業所内の感染症対策補助金でございますが、こちらにつきましては、アンケートの中で自由記載の中で、マスクが手に入らない、また消毒薬が高価であるというような意見がたくさんございましたので、このような補助をもって、町のほうで支援を考えるものであります。

また大山町の販路拡大支援補助金につきましては、こちらのほうにつきましては町内企業の力を、この際、コロナウイルスのようなことが今後、もし起こった場合でも、耐えられる力をつけていただくような、企業の力の向上を目指して、町のほうで事業を考えておるものであります。

また大山町の飲食店等緊急支援補助金でございますが、こちらにつきましては、商工会さんのアンケートの中で、影響が出ている、または今後、影響が出る可能性が大きいというような回答項目が、飲食店につきましては 100%回答でございました。

また、その中で前年に比べての、収益の減少率も平均 60%を超えているような状況でございましたので、宿泊業と並んで、飲食関係については影響が大きいというような判断で、このようなデリバリ、テイクアウトについての取り組みについて支援を町のほうで提案するものです。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。お答えさせていただきます。

まず、先ほど来ありました感染予防対策にかかる施設整備支援事業ということでございまして、上限を 400 万円の補助率 5 分の 4 で、400 万上限ということでございます。これにつきましても、大山寺の旅館組合長さん、それから組合員の数名の方とお話をさせていただいた際に、こういった事業があればとても助かる。ましてや、共同浴場でご

ざいますので、感染予防に助かるというところでございまして、ぜひともお願いできたらということでございました。

で、それに伴いまして融資の相談もされているわけですし、こういったことも、もし可決、お認めいただければ、こういったことも融資の中も含めてぜひ申請したいという御意見を賜っております。

それから旅館組合の関係でございますけれども、観光課のほうで、旅館組合さん、ちょっと調査をさせていただきました。キャンセル率でございますけれども、3月のキャンセル率が81%、4月のキャンセル率は96.4%、ゴールデンウィークにつきまして4月29日から5月の6日ですが、99.3%という、とても高いキャンセル数値になっておりますので、よろしく申し上げます。以上です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） RPAとシンククライアントに関する答弁と緊急性がない事業が入ってるじゃないかという2点が漏れてますので答えたいと思いますが、まずRPAとシンククライアントの関係は直接的には関係ないというふうに思っています。今現状で、RPAは個別の物理パソコンにインストールする形でやっていますので、それがクラウド化できて、サーバーで動かせるようになれば、少し便利になるかなというふうに思いますが、直接的には、シンククライアントとRPAの関係性は、そこまでないかなというふうな認識であります。

もう一つの例えば感染予防策の施設整備支援事業等が、今緊急性がないんじゃないか、また後でもいいんじゃないか、何で今出したのかというようなことですが、これは先ほど西尾議員の質問でもお答えをしておりましたので、その事業者によって確かに大変困っておられるところもあれば、幾つか、商工会、あるいは旅館組合のほうにも御協力いただいて、匿名でその企業の経営状況等の資料も出していただいて複数社の、経営状況見ましたが、確かに経営体力がないところもあれば、これは、コロナで数カ月売り上げがなくても、大丈夫な健全な経営されているところ、さまざまあります。で、そういったところに、資金的に余り困ってないところに支援策支援策ということをやっているんですけど、確かに困っている企業にとってはいいんですが、その先を見越した施策をやっていききたい事業者にとりましては余り助けにならないというような考えでありますので、この際、設備投資にも、しっかり支援をしながら、今のコロナで売り上げが減った分も減少、減少分もカバーできるような施策でありながら、先々のコロナ収束後も見据えた投資になるように、支援をしていきたいという考えで、このたび計上しております。以上です。

○議員（1番 森本 貴之君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 森本議員。

○議員（1番 森本 貴之君） それでは何個か事業の中について、質問させていただきませんが、地元産材活用支援事業について、シシ肉については4回分計上されているという内容ですけれども、この中に、給食などで活用しという言葉もあるんですが、実際このジビエ活用について、話が出てきたときにも、実際この給食、食育の観点も含めて、取り入れていくような方針も聞いていたんですけども、ちょっと私の認識が間違っていたら申しわけないですけども、実際この給食の関係で、提供されたのは中山地区で、何か試食会のようなものだけであったんじゃないのかなと思うわけですが、学校給食などで活用する場合には、このたびは全町的にやっていかれるのか、それから緊急的に学校給食などで活用するんですけども、コロナ対策について終息した後は、それは継続してやっていくのかいかないのか。給食として活用していくのかどうなのかというところをお聞きしたいです。

それとあわせて、ジビエ利用確保事業で、今日いただいた資料の中には、冷凍庫の購入費として説明を受けているんですけども、議案書にかかわる概要の中には、冷凍庫と言うことは書いてなくてですね、活動の維持並びに経済回復の支援を行うというようなところが目的になってるんですけども、この220万円の内訳というのは、冷凍庫だけのものになるのか。それとも、地元産材活用支援事業と同じような、併用できる、経済回復の支援も含まれているのかどうなのか、お聞きしたいと思うのが1点。

それから、先ほどのシンククライアント環境整備事業についてRPAとは直接的な関係はないのかなというふうな答弁いただきました。なぜ聞かしてもらったかという、3月定例会の総務委員会の中では、このRPAの業務を、まずは農業委員会で実行して、その後、税務課のほうで、同じようなシステムが使えるんじゃないかという中で、職員でプロジェクトチームを立ち上げて、ゆくゆくはコンピューター回線端末を統一したいというような説明を受けていることを記憶しておりまして、関係あるのかなと思って聞かせていただきましたが、関係ないということで理解してよろしいということでしょうか。

あわせて、在宅ワークとして、今まで取り扱えなかった個人事業に関する業務等も行えるということでもありますけれども、やはり重要なところだと思います。個人情報絡むような事業を在宅ですることによる影響、その辺はどのように考えられているのか。また、端末、専用端末を持ち帰り在宅ワークができるようになるということになると、やはり、目に見えない時間外労働も出てくるんじゃないかとか、ちょっと心配になるわけですけどもその辺の対策、実際の運用については、どのようにリスクをとらえておられるのかお聞きしたいと思います。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。地元産材活用支援事業のイノシシの肉です

けど、今まで使用実績がございます。で、1回当たり、キロだいたい2,000円ぐらいで提供されてまして、今後も継続して使用していきたいということで伺っております。今回1回当たり35キロ、だいたいカレーとかハンバーグ、ミンチで使われるようなことで今検討をしております。

あともう1点、ジビエ利用の220万ですが、これは冷凍庫のみの金額です。一応半坪型ってということで、約1メートルですか、90センチ、1メートル80の冷凍庫ということになります。以上です。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。シンククライアントにつきましての御質問ですけれども、まず、RPAとシンククライアントの関係ということでございますけど、町長が答弁しましたように直接的には、関係がないというものでございます。

あと、個人情報をご在宅で取り扱う影響というものでございますけれども、住民情報の種類にもいろいろございまして、例えば役場の中におきましては住民情報が多く入っているものがありますし、あるいは、役場の決裁をとるために、住民の氏名なり、のみが書いてあるものというふうに、いろいろな個人情報というものがございます。それを、個人情報がないものを在宅ですするというのは、今回のコロナの関係で、在宅勤務もできるようにしましたけれども、それは個人情報の無い物というものを、役場のコンピューターから持ち出して、それは当然、持ち出すときに管理職がチェックするんですが、それで、個人情報のないものを、在宅ですというふうな取り決めをやって、やってみたものの、なかなかそういう情報が少ないということがあって、在宅勤務というのはなかなか難しいというのが現状でございます。

例えば、数的に多いのは、支払いの請求書なりというのは当然業者さんの住所氏名金額というようなものが入ってまして、そういうものは、今まででしたら在宅ではできないというものでございました。

今回のシンククライアント化ということで、個人情報の漏えいがないようなシステムということになりますと、そういう業務が在宅でできるということになれば、職員もやる業務がふえるというふうに考えております。

あと、職員の時間外の考え方と、が増えるんじゃないかということで、今回なかなかうまくはいきませんでしたけれども、在宅勤務ができるというふうなことでシステムなり、やりましたけれども基本的に時間外はしないということで、この在宅勤務のやり方というものをつくってやってみましたけれども、先ほど言いましたようになかなか業務がないということで、うまくは行ってはおりませんけれども、基本的には、時間外は、在宅ではないように制度設計していきたいというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。ほかに質疑ありませんか。

○議員（3番 門脇 輝明君） 議長、3番。

○議長（杉谷 洋一君） 3番 門協議員。

○議員（3番 門脇 輝明君） ちょっと基本的なことも含めて、ちょっと数多くなるかもしれませんが、質問をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

まず、役場庁舎等公共空間安心確保対策事業、ということで何点か購入をする事業になっておりますけれども、これは具体的には、どういったものをどのぐらい買われるのか。お伺ひをしておきたいと思います。

それから続いて同じことですけれども、保健衛生福祉部門リスク分散化用備品ということで、ありますけれども、これについても、何をどの程度買う内容なのか。

そして、先ほども何人かの議員の方が質問されましたけれども、シンククライアント環境構築事業ということで、やっておりますけれども、このシンククライアントという内容について、私も、あったかもしれませんが、こういう形は初めて出てきましたので、そのシンククライアントというものはどういうものなのか。

そして、そのシンククライアント環境というのは、どういうふうに整備していく事業なのか。そして、現在のシステムからシンククライアントに変わった時のメリット、先ほどちょっとありましたけれども、そしてメリットばかりではありません。多分、デメリットもあると思いますので、デメリットを教えてくださいたいと思います。

そして、肝心な部分は、在宅勤務、要するに今のコロナ第2波に対応するものだと思いますけれども、この稼働時期が今、予算成立したとして、いつごろ考えていらっしゃるのか、お伺ひをしておきたいと思います。

そして、財源の関係ですけれども、これは財政調整基金からの繰り入れで、措置されているように思いますけれども、この財政調整基金から、このシンククライアント環境構築事業に支出する、そういう根拠をお伺ひしておきたいと思います。

基金条例には、財政調整基金が処分できる場合が、5点、定められております。どれに当たるのか、端的にお伺ひしておきたいと思います。

それから数多くなってすいません。

テレビ会議システム整備事業について、ですけれども、これは、内容的には、本所、各支所あるいは教育委員会の事務所、学校含めてどういった形をつないでいかれるのか。どことどこでテレビ会議を行えるのかお伺ひをしておきたいと思います。

そして、次に、局舎内システムバージョンアップ設定委託料というのが挙がっておりますけれども、これも中身がよくわかりませんので、事業の内容、そして、今やらなきゃいけない必要性ということをお伺ひをしておきたいと思います。

次には感染予防事業ということで、マスク等の購入が予定されておりますけれども、購入予定の数量、そして配付先、配布予定先、配布予定数量は、どのように考えていらっしゃるのか、伺ひたいと思います。

あと、先ほどジビエ利用確保事業について、いろいろ質問が出ておりましたけれども、これは、ジビエ振興会がコロナが終わっても恒久的に、これは、必要だということで挙げられて思いますがけれども、今の緊急事態のところ乗り越えれば、次は大丈夫なんだということであれば、外部の、倉庫会社の冷凍庫を利用するとか、いろいろな方法があると思いがたけれども、そういった検討はなされたのか、お伺いをしておきたいと思いがた。

そして、最後、町内施設を利用したツアー造成事業ですけれども、このマラソン大会ですか、実施ということですがけれども、期間が、今、8月22日、23日ということになっておられますけれども、各地域自主組織の事業として、夏は、夏祭り等いろいろ計画しておりましたけれども、ほとんどのところが中止をしております。そのときに、町が率先して、こういった外部から、入ってこられる、そういう事業を推進していくってことについて、どういうふうにごくめて、どういうふうにごく明をしていけばいいのかな。ちよつと悩んでおます。そういった部分、町の考え方を教えていただきたいと思いがた。

それからその募集について、やるとすればですね、募集期間は7月1日からというふうにごく、ちよつと漏れ伺いましたけれども、それで先着順ということでごくおます。ちよつと見逃していけばいけば、あつという間にいっぱいになるんじゃないかな、というふうにごくおます。

期間を、区切ってですね、いつ利用するのはいいのかちよつと私もわかりませんけれども、期間を区切って、まず第1抽選とかいう形で考えられないものだろうか。行きたかった人が平等に行けるチャンスが、与えられるっていう形のほうがいいのではないかなとごくおます。

そして、この事業に1,000万使うわけですがけれども、一つは、町民の方の情報発信に期待をしてるというふうにごくしてありますし、でアンケート等も実施するという話でしたけれども、問題はどの程度、経済波及効果があるごくしてこの実施をされるのか。まあ1,000万使って1,000万でやりましたであれば、もうこれは却って各泊まられる旅館さんの方に直接、補助したほうがよっぽど効率的だごくして思うわけですがけれども、いかがでしょう。

○議長（杉谷 洋一君） すいません、ちよつと休憩させてください。

午後2時休憩

午後2時1分再開

○議長（杉谷 洋一君） 再開します。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい。そうしますとまず最初に、公共安全安心確保対策事業ということでの内容でごくおますけれども、役場の公共施設内に、今現在、カーテン

なり、あるいは飛沫感染予防というようなものをいろいろつけております。これ、第2波、第3波ということで、長期化するということで更新も必要ということで町内17カ所、1カ所当たり10万円ということで予算計上しております。

あと、保健、衛生、福祉部門リスク分散化用備品ということで、これにつきましては、事務用品と、あと電話設備を配線するというので予算計上をしております。

次にシンククライアントはどういうものかということでございます。シンククライアントというものは、全協のときに説明資料つけておりますけれども、職員なりが持っている端末には、処理結果のみを表示されていわゆるデータ等が保存されないと、保存されるのは、つながっているサーバーのほうにデータなりはあるということで、端末にはデータが残らないというシステムでございます。ということで外部で使用したときでも、情報漏えいがないというものでございます。

デメリットということになりますと、サーバー等の故障というようなことがあれば、影響が大きくなるということでございます。

あと在宅勤務はいつごろかということでございます。シンククライアント等々の業務につきまして、制度設計ができるのに約3カ月ぐらいはかかるというふうに考えております。

次に財源のところにいきまして、テレビ会議システムをどうつなげるかということでございます。テレビ会議システムは、基本的に、本庁、両支所、センターなわということで、研修等、多人数同士の会話ができるというような感じのシステムでやっていきたいということでございます。

次に、局社内システムバージョンアップ設定委託料というものでございます。これにつきましては、ちょっとコロナとは関係ございませんで、これについてはケーブルテレビが設置されておりますけれども、各家にございます無線ラン付きのモデムが今現在のものが、数が少なくなって、今、新しいバージョンのものができておるとということで、在庫がなくなってきたということでございます。その新しいタイプのものに、対応するために、大山、名和、中山にあります局社内のシステムをバージョンアップする必要があるということで、その委託料を計上しておるものでございます。以上です。

○財務課長（金田 茂之君） 議長、財務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 金田財務課長。

○財務課長（金田 茂之君） 財政調整基金の繰入金の関係でありますけれども、このシンククライアントの事業の発端は、新型コロナウイルスかもしれないけれども、国のほうではその後の大災害にも有効な手段だということですので、本町としては災害という形で捉えておるところであります。

○健康対策課長（末次 四郎君） 議長、健康対策課長。

○議長（杉谷 洋一君） 末次健康対策課長。

○健康対策課長（末次 四郎君） 衛生費に係ります感染予防事業でございますけれども、購入予定は、マスク 4 万枚でございます。

配布でございますが、大森議員のときにも申しましたですけれども、町内の医療機関、福祉介護施設におきまして、現在も県等からの配布もあっておるわけですが、その中でも、やはり不足している状態がございますので、その状況に応じて配布は継続していきたいというふうに思っております。以上です。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。ジビエ利用確保事業で冷凍庫は今後も必要かということですが、今後も必要なことだというふうに思っております。

今のジビエ振興会ですが、販路の拡大に取り組んでおられまして、ふるさと納税等も活用されております。またホームページの作成等も、今年度向かわれまして、今後も販路は拡大されていくというところで、調子よくいったんですけど、このコロナの影響で、3 月からやっぱり 4 月、言いましたとおり、旅館等の休業、そういったところで、在庫がかなり出てくるというような状況でありますので、今はもうそれをすぐ入れるようなものが必要だということでございます。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。お答えさせていただきます。

3 点だったかと思えます。

まず大山グリーンランフェスのことについてですけれども、8 月の 22、23 で実施をどうなんだろうかということでございました。こちら加藤議員のほうでもお答えさせていただきましたですけれども、6 月に実行委員会が開催されます。そちらのほうで町なり県なりの現在のコロナ対策の状況なり説明しながら、実行委員会で決定をさせていただきたいという具合に思えます。情報のほうは、提供させていただきたいと思えます。

そして、期間を区切ったツアーのほうですけれども、第 1 次抽選会とか、第 2 次抽選会とかできないかということでございますが、こちらのほうは検討させていただきたいと思えます。

それから、1,000 万円の経済波及効果というところがございますけれども、例えば、情報発信、アンケートあるんですけれども、例えば、大山に来るならここに泊まって、こんなツアーを体験するというようなことですね、どんどん広めていただきたいという具合に思えます。経済波及効果は、かなり大きいものがあるのではないかなという具合には考えております。あくまでも想定段階でございますが、御理解よろしく願います。

○議員（3 番 門脇 輝明君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 門脇議員。

○議員（3 番 門脇 輝明君） シンククライアントシステムについてですが、稼働時期はということでお伺いしたつもりなんですけれども、明確なお話がなかったようですので、再度、わかる範囲で結構ですから、この辺を見込んでいるということがわかればお答えをいただきたいと思います。

すいません、1 問目の質問になかったんですけども、ごめんなさい。

GIGA スクールの稼働時期も、いつごろになるか、これは質問しなかったんで答えられれば結構です。

そして、ツアーのほうですけれども、しっかりやられるんで、効果的な対策にしているいただきたいと思いますので、そういった波及効果も、終わった段階でしっかり把握していただきたいと思いますし、1 番は、その時期に町がこういった事業を、実行委員会形式であると言いながら、推奨するという形になってしまうんじゃないかなあ、今は中止が決まっているいろんな地域の祭りについて、じゃあ、やってもいいですよという、そういうメッセージになるんじゃないかなと思うんですけどその辺の認識については、いかが考えればよろしいでしょうか。

○議長（杉谷 洋一君） 簡潔な答弁をお願いします。

○総務課長（山岡 浩義君） 議長、総務課長。

○議長（杉谷 洋一君） 山岡総務課長。

○総務課長（山岡 浩義君） はい、シンククライアントの稼働時期ということが順調にいけば9月というふうに考えております。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） 議長、幼児学校教育課長。

○議長（杉谷 洋一君） 田中幼児学校教育課長。

○幼児学校教育課長（田中 真弓君） GIGA スクールの稼働時期についてですけれども、機器の調達状況にもよりますが、3 月末を目指しております。現在、端末の整備事業につきましては繰り越しも可能ということになっております。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。まず波及効果についてですけれども、こちら把握できるに努めてまいりたいと思います。

また、実行委員会のことですが、実行委員会のこういった結論が出るかわかりませんが、やはり情勢を見極める力は皆さんがお持ちだと思いますので、そのへんは町がどうのこうのっていうことではなく、実行委員会の総意で決めたいと思います。以上です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） はい。観光課長が述べましたけれども、実行委員会で決めていただくというところで、その町がかんでののに、推奨していいのかというところですが、先ごろ5月25日に全国で緊急事態宣言が解除されました。それによって、国あるいは県が、これから経済、社会経済活動の正常化に向けて、3段階のステップで進んでいくということの方針なり指針なりを示しました。

それによりますと、まず第1段階として、現状のイベント開催、屋内100人、屋外200人というところで感染予防は当然しながらですけれども、そういった要領でやってもいいというのがほしい6月18日までで、第2段階の6月19日から7月9日までは、屋内外ともに1,000人規模のイベントまではしていいだろうと。ただし、感染予防はしっかりしてくださいと。その後の7月10日から7月31日までは、屋内外5,000人規模のイベントまでは大丈夫だというような指針も出ております。で、8月1日以降は、そういった制限なくやっ払いこうということで国あるいは県も方針を示しておりますので、町としてもその指針やあるいは感染予防策等を準じながら、イベント等の開催については助言なりしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。ほかにありませんか。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長、7番。

○議長（杉谷 洋一君） 7番 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 何点か聞かしてください。

まず最初の町内施設を利用したツアー造成についてですね、確認予防策に関する施設整備のことについてですけれども、一応施設整備のほうで感染予防でトイレ、バス、風呂を室内ほうに設けるということがあって初めてお客様も行かれるじゃないかなというふうに思うんですが、この辺について募集のほうですね、感染予防のほうは6月上旬、で、施設利用したツアー造成につきましては、6月下旬で実質が7月から9月までの予定ということになっております。

この辺についてちょっと、時間的なもんがどうかと、それを改修するのにとというのはちょっと疑問があるっていうのが、一つ、1点です。

それと、この概要を見させてもらいますと、SNS等で発信してもらおうということになりますと、ある程度そういったSNSが使える方でないといけないということになると、あの辺に行きたいという方は若い方が中心になるのかなというふうに思ってしまう。ということは高齢者とかそういったところは行かれないのか、という募集できないのかというところ、その辺は心配になりますし、それとこれ、観光局のほうで、委託を受けられるということですが、実際に観光局のほうで受けられるということになるとですね、この前14日の臨時会の時に、旅館業を持ってるのは21と言われませんでしたかいね。確かその程度だって言われましたけれども、実際に大山寺で、今言われる観光局の中に、全ての方が入っておられるのか、それを教えていただきたいと思っております。

なぜこういうことを申しますかっていうことですね。7月以降は先ほど町長が言いましたように、ある程度、あ、8月ですか、県境を越えての移動はできるようになってくると、この辺でいくと京阪神のほうからお客さんが来られる方もあるかと思いますが、でも、実際施設が直ってなければ何も意味がないというふうに思うんですね。そのあたりのことを教えていただきたいというのがありますのでお願いしたいと思います。

で、先ほど4月の27日から5月6日、ゴールデンウイーク明けまで、休業率は99.3%と言われましたけども、実際大山寺のほうでは旅館組合のほうが、自粛、自主的に休業されたと思うんですけど、なぜ100%でないのかなというのがちょっと疑問に思いますんで、その辺りも教えてください。

それからグリーンシーズン活用なんですけども、実は、以前高原マラソンというのが榊水のほうまで行って返ってくるマラソンがありました。これが約25年、四半世紀ぐらいになるかな、前まででありました。それからクロスカントリー、これは5年ほど前まであったんですが、で、このところでなぜやめたっていうのは、何っというかな、観光局のほうの手間が掛るといような話があって、やめられたというふうに私は記憶しとるんですね。

それが今回また新しくクロスカントリーと同じように、スキー場を走らせるということを復活されるということになってきてるんですけども、そのあたりの実行委員会で検討されるということがあるんですけど、実際その実行委員会に観光局が入ってるのかなのか。で、観光局とどう話をされたのかというのもお聞かせ願いたいと思います。

ここに読ませてもらうと旅館組合の後継者の方から意見があったということがうたってあるんですけど、じゅあ後継者の方が、7、8人おられますけど、それに皆さんが大体それに参加されてるいるのか、そういったところも聞きたいと思います。

それから、最後になりますけど、ちょっと今回のコロナ対策に対しまして、農業関係について余りにも少ないかというふうに考えております。農作物、秋冬野菜につきましては、大山町におきましては、ネギ、ブロッコリー。白菜、キャベツを作っておられる方もありますが、そういったところも、年明けから価格的には多少下がりになっております。それから今度は春撒き野菜で、初夏採りになってきますけども、この初夏どりが実際に影響出てくるのは、今ちょうど端境期が終わって、初夏採りが出荷が始まるような状況になっております。本当に4月の終わりか5月いっぱいにかけては、端境期で野菜が出ない時ですから、目に見えてわかってないと思うんですが、これからどんどん農作物の影響が出るというふうに思います。

先ほど、JAとか、これは漁協のほうですけども、いろいろ意見を聞かれたというこはありましたが、実は、農協に出荷してない市場出荷の方もおられます。つまり、声なき弱者にどういうふうに手当てをしていくのか、こういったところが1番大事ではないかというふうに思うんですが、その辺りをお聞かせください。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。お答えさせていただきます。

たくさん、質問いただきましたので漏れがあったらまた御指摘いただければという具合に思います。

まず時期的なものというところがございますけれども、7月から9月というところがございますけれども、一応この3カ月間でやっていけたらという具合に思っておりますし、感染予防対策につきましても、6月上旬から募集開始をしまして、それから工事にかかっていたくということ、お店の都合にも、宿泊所の都合にもよりますけれども、年度内で終わらせていただきたいという具合に考えております。

それから旅館組合の数ですけれども加盟されているのは、現在18でございます。町内、全町内の宿泊事業所はもっとそれより増えている。今、40、約40というところがございます。

それから、キャンセル99.3%についていうところがございますけれども、自粛はされておりますけれども、先に申し込まれていておやめになられた方、申し込まれていて、キャンセルせずに来た方はこぼめない格好になりますので、御理解をお願いします。

それと、グリーンシーズン活用の分でございますけれども、観光局は実行委員会に入っているか、当然入っております。どういった内容かと言いますと、配宿とかそういったところのお手伝いなるかなということもありますし、当然、運営の方にも関わっていくという格好になっておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。何かありましたら、また御指摘ください。お願ひします。

○農林水産課長（井上 龍君） 議長、農林水産課長。

○議長（杉谷 洋一君） 井上農林水産課長。

○農林水産課長（井上 龍君） 失礼します。まず農業関係の支援が少ないんじゃないかということですが、4月5月のコロナの関係では、ネギ、ブロッコリーというのは、ほとんど影響がなかったということで聞いております。影響があったのが、それまで3月の暖冬の関係、昨年10月から3月までの暖冬の関係で、売り上げが落ちたということで、4月5月については、ないということで聞いてます。

J Aさんのほうにも、今の活用の事例集とかお持ちして、いろいろ今後のことについて、協議もしております。ただ今の段階では、支援は必要ないということで伺っております。

ただこれから高級食材、ナシとかメロンとか、そういったこともまた出てくると思ひますので、それがどう影響してくるかっていうのは、今後また検討していきたいというふうに思ひます。

また直接、ホテルとかに出しておられる農家さん、そういう方は、持続化交付金の対

象になると思いますんで、そちらのほうで救済があるというふうに考えております。以上です。

○議員（7番 米本 隆記君） 議長。

○議長（杉谷 洋一君） 米本議員。

○議員（7番 米本 隆記君） 観光につきましては大体わかりましたけども、もう1点ちょっと、再度お聞きしたいんですけど。

先ほどのグリーンシーズンの活用につきましては、もちろん観光客も入ってますよということでありましたけども、このクロスカントリー辞められるときの話を私ちょっと、定かでないんですけど私の記憶間違いかもしれませんが、私は、観光局のほうで、確かなかなか、その運営が大変だということ辞められてるように私は聞いたんですが、ですからその辺のところはね何かちょっと、今回の、同じように、スキー場を使っただけのクロスカントリーと同じようなことですね、されるってことにつきまして、ちょっと何か違和感があるというふうに思っております。

それから、農協のほうはこれから営業が出るかもわからんということですから、実際そうだと思います。今、端境期で、4月、5月というのは、はっきり言ったら農産物動いておりません。動いたのは、せいぜいネギとブロッコリーだけです。ここは秋冬から引きずってますから、そんなに値崩れしたことないと思います。ただ若干下がっております。

ですから、本当に影響が出るのはそこですけども、今さっき言いましたけど、声なき弱者ですよ。弱い農家の方が、そういった方々に本当に手助けできるんですかっていうことなんですよ。申請してくださいって言われても、本当にできるかどうかというのはわからないです。そういったところがどういうふうに、先ほど課長のほうからもありましたが、申請してくださいって言われますけども、本当にそれが農家ができるのかどうか。大変だと思います。そのあたりについて再度お聞かせ願いたいと思います。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） はい。高原マラソン辞めた理由は、私もちょっと承知しておりませんので、そこは御勘弁いただきたいという具合に思いますが、こちら、このあたりはこちらの実行委員会のほうが、後継者の方が発起人になりまして、旅館組合を巻き込んでということになりますけれども、こういったランニングイベント会社も運営に、この大会に携わってくれるということでございますので、その辺は問題はないかなというふうに思いますし、継続をしていくという意思でございますので、ぜひとも御協力いただければという具合に思います。以上です。

○観光課長（徳永 貴君） 議長、観光課長。

○議長（杉谷 洋一君） 徳永観光課長。

○観光課長（徳永 貴君） 失礼します。先ほど言われた声なき弱い農家の方の支援いうところですが、申請と言われますのは多分、持続化交付金の申請等のことだと思いますけど、そういったところはやっぱり町のほうで今後、何か、支援体制、相談窓口、そういったところも検討していかないといけないというふうには考えております。以上です。

○議長（杉谷 洋一君） よろしいですか。ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） なかったらこの辺で終了したいと思いますけど、どんなものでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） じゃあこれで質疑なしと認め、これで質疑を終了します。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 討論なしと認め、これ討論を終わります。

これから議案第 74 号を採決します。お諮りします。

本案を原案のとおり決定することに賛成の方は起立願います。

〔 賛成者起立 〕

○議長（杉谷 洋一君） 起立多数ですしたがって、議案第 73 号は原案のとおり可決されました。

日程第 6 議案第 74 号

○議長（杉谷 洋一君） 日程第 6、議案第 74 号 令和 2 年度大山町国民健康保険 診療所特別会計補正予算（第 1 号）を議題にします。

提案理由の説明を求めます。 竹口大紀 町長。

○町長（竹口 大紀君） 議案第 74 号 令和 2 年度大山町国民健康保険診療所特別会計補正予算（第 1 号）については、新型コロナウイルス感染症への対応に伴う消耗品費の補正を行うもので、既定の歳入歳出予算をそれぞれ 81 万 8,000 円増額し、歳入歳出予算総額をそれぞれ、3 億 6,239 万円とするものであります。

以上で、提案理由の説明を終わります。

○議長（杉谷 洋一君） これから質疑を行います。質疑はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 質疑なしと認め、これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（杉谷 洋一君） 討論なしと認め、これで討論を終わります。

これから議案第 74 号を採決します。 お諮りします。

本案は、原案のとおり 決定することに賛成の方は 起立願います。

[賛成者起立]

○議長（杉谷 洋一君） 起立多数です。

したがって、議案第 74 号は、原案のとおり可決されました。

閉会宣告

○議長（杉谷 洋一君）

これで、本臨時会の会議に付議された事件は全部終了しました。

会議を閉じます。

令和 2 年第 6 回大山町議会臨時会を 閉会します。

○局長（持田 隆昌君） 互礼を行います。ご起立ください。一同礼。

午後 2 時 26 分閉会

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する

議 長 杉谷 洋一

署名議員 大原 広巳

署名議員 大杖 正彦